

金城学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

I 判定

2021（令和3）年度大学評価の結果、金城学院大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。

認定の期間は、2022（令和4）年4月1日から2029（令和11）年3月31日までとする。

II 総評

金城学院大学は、1889（明治22）年に創設された女学専門冀望館を始まりとしている。1949（昭和24）年に英文学部英文学科の単科大学として開学してからその規模を拡充し、現在では5学部12学科・2研究科6専攻を有する総合大学となっている。

長年にわたり、建学の精神である福音主義のキリスト教に基づいた全人的な女子教育を展開している。それは「福音主義キリスト教にもとづく女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」という「学院教育の三本柱」に現れている。さらに、「強く、優しく。」を教育スローガンとして掲げ、教育研究に取り組んでいる。

2019（令和元）年度には、教育研究の質を更に向上させていくため、内部質保証システムと組織を整備した。システムの中核となるのは、全学的な内部質保証の推進を担う「内部質保証推進会議」（以下、「推進会議」という。）である。さらに、「推進会議」からの委託を受けて、教育活動に関する内部質保証に特化した組織として「教育課程編成会議」（以下、「編成会議」という。）を設けている。しかしながら、全学的な観点からの改善・向上の指示・支援は十分とはいえず、「推進会議」に対する自己点検・評価結果の報告が行われていない部局等もみられるため、各部局での自己点検・評価のPDCAサイクルを全学的な内部質保証システムのなかに位置付け、「推進会議」「編成会議」が全学的な内部質保証の観点から適切なマネジメントを図るよう改善が求められる。

教育については、各学部・研究科の専門性を踏まえた体系的な教育課程を編成している。大学の理念・目的を実現するため、学部の共通教育科目として「キリスト教」「女性」「国際理解」をテーマに、建学の精神の理解につながる独創的なカリキュラムを編成していることは特筆に値する。また、「国際理解の教育」を実践する教育活動として、「副専攻（実践ビジネス英語）プログラム」を学部・学科を横断するプログラムとして開設し、教員による手厚いフォロー体制のもと、学生同士が切磋琢磨しながら学べる仕組みを構築している点は評価できる。

社会連携・社会貢献についても、各附置施設において、女性や子ども、障がい者等の支援を継続的に行うことで、大学の理念・目的に沿った教育研究成果を社会に還元している。一部の施設では、学生スタッフが活動に参加することで、学生の学習成果の向上にもつながっており評価できる。

一方、研究科において改善すべき点が複数ある。まず、両研究科において、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を学位ごとに定めておらず、人間生活学研究科においては、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に必要な内容等を盛り込んでいないため、改善が求められる。また、文学研究科では、学位論文審査基準を課程ごとに明確にしていなかったため、改善が求められる。さらに、収容定員に対する在籍学生数比率が低い研究科があるため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。

今後は、内部質保証の取り組みを通じてこれらの問題点を解決するとともに、優れた取り組みを更に発展させることで、一層の飛躍を期待したい。

Ⅲ 概評及び提言

1 理念・目的

<概評>

- ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

建学の精神は「福音主義キリスト教にもとづく女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」という、「学院教育の三本柱」に体现されている。大学の理念・目的は、こうした建学の精神を踏まえ、学則において「福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的とする」と定めている。また、大学院の目的を、大学院学則において「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、広く文化の進展に寄与することを目的とする」と定めている。5学部2研究科の教育研究上の目的も大学全体の理念・目的と連関し、これに沿った内容で設定している。これらの目的は、教育スローガン「強く、優しく。」に体现され、多様化する世界や社会に積極的に関わることができる人材を養成する高等教育機関として適切であり、かつ建学の精神を反映した独自の特徴を有している。

- ② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

大学の理念・目的及び学部・研究科の目的は、学則及び大学院学則に、各学部・

研究科における教育研究上の目的は各学則別表に明示している。これらの理念・目的やそれを踏まえた教育スローガンは、大学ホームページや学生用のハンドブック等で教職員及び学生に周知しており、後述する3つの方針（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針）にも記載している。また、共通教育科目や教職員に向けた「大学教員キリスト教セミナー」等の機会を通じて、学生及び教職員の理解を深めるよう促している。他方、社会に対しては、大学ホームページに加え、電車内の広告等、情報媒体にも工夫をこらしながら積極的な広報に努めている。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

2019（令和元）年度に設立70周年を迎えるにあたり、「社会の変化が著しく、不確実な現代において、本学が大学教育の役割をしっかりと捉えつつ、時代の要請に応えるべき」との考えから、2018（平成30）年度に「金城学院大学 VISION 2030—10年後、さらに輝く大学になるために—」（以下、「VISION 2030」という。）を策定した。「VISION 2030」では、2030（令和12）年までに目指すべき大学像を提示し、そのなかで「福音主義キリスト教に基づく女子教育」「全人教育」「国際理解の教育」という建学の精神を再確認し、「教育」「研究」「地域社会との共生」「環境整備」に関する4つのビジョンを策定している。「VISION 2030」を踏まえ、翌2019（令和元）年度には「金城学院中期計画（2020年度～2024年度）」を策定し、大学の理念・目的を実現していくために、「教育研究の推進と学習支援」「地域社会との共生」「環境整備」の3分野におけるアクションプランを設定した。このように、将来を見据えた中・長期計画を策定し、理念・目的の実現に努めている。

2 内部質保証

<概評>

① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。

大学の掲げる目標を実現するため、2019（令和元）年度に「内部質保証の方針」を定めた。同方針では、目標の実現に向けて、中期計画に基づき教育研究活動を行い、各部局が自己点検・評価を実施して、質の保証と改善・向上の取り組みを推進することを基本的な考えとして示したうえで、組織、活動指針、情報公開について規定している。全学的な内部質保証を推進する組織として「推進会議」、教育活動に関する内部質保証を推進する組織として「編成会議」を設置し、各組織が行う手続を示している。

「内部質保証の方針」は大学ホームページで公開し、教職員を対象とした「FD・SD交流集会」において教職員全体での情報共有を適切に行っている。

② 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。

「内部質保証推進会議規程」（以下、「推進会議規程」という。）に基づき、内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として「推進会議」を設置し、「推進会議」をサポートする組織として「推進会議」に小委員会を設置している。また、「教育課程編成会議規程」に基づき、別途「編成会議」を設置し、教育活動に関する内部質保証の推進を担っている。「編成会議」で取り扱う教育活動に関する自己点検・評価については、とりまとめた結果を「推進会議」に報告することとされており、「推進会議」が全体を統括する体制となっている。

手続としては、まず学科・専攻及び委員会等の各部局が、「推進会議」の定める基本方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行い、その結果及び次年度の計画を「推進会議」に報告・提案する。「推進会議」からの改善指示に基づき各部局は改善に取り組み、その結果を「推進会議」で確認する流れとなっている。

教育活動に関しては、「編成会議」の定める方針に基づき、各部局は毎年度、自己点検・評価を行い、その結果及び次年度の計画を「編成会議」に報告・提案する。「編成会議」からの改善指示に基づき各部局で改善に取り組み、その結果を「編成会議」で確認する流れとなっている。

「推進会議」「編成会議」ともに、会議は学長が招集し、議長を務めると規定されており、小委員会の取扱い事項や構成員も学長が定めることとなっている。

「推進会議」「編成会議」の構成員は、責任主体である学長を筆頭に、目的の実現に必要な部局の長等によって構成されている。「推進会議」は教育研究、組織・運営、施設・設備の部局の長から、「編成会議」は教育活動に特化した質保証の取り組みを担う部局の長から、適切に人選がなされている。

以上のことから、全学的な内部質保証の推進体制は適切に整備されていると判断できる。

③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

全学的な基本方針を「3つのポリシーの変更手引き」に定め、これに沿って全学的な3つの方針を策定している。各学部・研究科の3つの方針は全学の方針を踏まえ、それぞれの目的に基づき具体的に設定している。全学的な方針及び各学部・研究科の方針は、「編成会議」の審議を経て変更される仕組みとなっている。

全学的な内部質保証の取り組みは、「内部質保証の方針」に従って実施している。具体的には、各部局が中期計画等を踏まえ「設定した目標」「当該年度における達成状況」「改善策」について点検・評価し、それを「推進会議」又は「編成会議」がレビューする方法で実施している。また、各部局の目標設定、中間評価、年度評価のプロセスは、「推進会議」のもとで全学的に実施している。このように、各部

局の取り組みをレビュー・確認することで、教育の充実・学習成果の向上等に関する改善を図っている。

しかしながら、「推進会議」や「編成会議」の関与という観点では、全学的な事項や教育活動に関する各部局の自己点検・評価結果及び改善策を確認・了承するにとどまっていること、研究所・センター等における定期的な自己点検・評価については、個別には実施しているものの、その結果を「推進会議」に報告していないことは課題である。附置施設についても、全学的な内部質保証システムのサイクルに適切に組み込むとともに、各部局の自己点検・評価に対し「推進会議」「編成会議」がより積極的に関与し、全学的な内部質保証の観点から改善・向上の指示・支援を図るよう、改善が求められる。なお、「編成会議」から「推進会議」への教育活動に関する自己点検・評価に関する報告については、システムが回り始めた段階でまだ報告実績がないため、今後着実に実施されたい。

また、2020（令和2）年度に文部科学省から指摘された、人間科学部現代子ども教育学科における教職課程上必要な専任教員数の不足に関しては、緊急事案として関係部署において適切に対応したが、「推進会議」及び「編成会議」のいずれもこれに関与していない。今後は、内部質保証システムの定期的な点検・評価・改善のプロセスのなかで「推進会議」又は「編成会議」が関与することが望まれる。

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、学生や教員を対象に適宜アンケートを実施し、その結果をIR室がとりまとめた。それをもとに、「推進会議」「編成会議」がそれぞれ対応を検討し、適切に対応した。

④ 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。

教育研究活動、「内部質保証の方針」『自己点検・評価報告書』、大学評価（認証評価）結果、事業・財務報告、社会連携・社会貢献活動等について大学ホームページで公表している。しかしながら、学校教育法施行規則で公表が求められている項目のうち、各教員が有する学位及び業績の公表に不十分なものが散見されるなど、内容に不備のある項目があるため、改善が望まれる。また、教育職員免許法施行規則において公表が求められている項目のうち、専修免許状に関する情報を公表していないため、公表することが望まれる。

⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

内部質保証に関する取り組みの適切性に対する全学的な視野からの検証及び評価については、「推進会議規程」に従い「推進会議」で審議している。「推進会議」まで含めた内部質保証システムの適切性に関するレビューについてはまだ実績が

ないため、今後適切に取り組むことが望まれる。

<提言>

改善課題

- 1) 「内部質保証推進会議」（「推進会議」）「教育課程編成会議」（「編成会議」）では、各部局等の自己点検・評価結果の報告内容を確認・了承することどまっておき、研究所・センター等における自己点検・評価については、各施設で定期的に自己点検・評価を行っているのみで、その結果を「推進会議」に報告していない。附置施設についても、全学的な内部質保証システムのサイクルに適切に組み込むとともに、各部局等で行われる自己点検・評価に対し、「推進会議」「編成会議」がより積極的に関与し、全学的な内部質保証の観点から改善・向上の指示・支援を図るよう、改善が求められる。

3 教育研究組織

<概評>

- ① **大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。**

大学の理念・目的に基づき、5学部12学科、2研究科6専攻を設置している。学部においてはそれぞれの特徴を生かした学科を設置し、研究科においては学科の専門性を反映させた専攻を設置している。

附置研究所として、教育研究の専門性を踏まえた人文・社会科学研究所、消費生活科学研究所、キリスト教文化研究所を設置し、各規程のもと研究の推進を図っている。

また、臨床心理実習の場の提供と一般来談者の対応の役割を担う「心理臨床相談室」や、子育てや女性の社会活動を中心とした地域社会への貢献推進を目的とする「KIDS センター」、女性の多面的な役割と課題を研究し、その成果を還元するための「女性みらい研究センター」も設置され、建学の精神に立脚した活動を行っている。センター等の概要や活動内容は大学ホームページで詳しく紹介し、一般住民が利用しやすい環境を整備している。

- ② **教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

教育研究組織の適切性については、各部局において定期的に点検・評価を行っている。

各学部・研究科の適切性については、毎年度の入学者状況に即して学科、専攻又は学長室において点検・評価し、受験生のニーズを踏まえ、学科名称の変更やカリ

キュラム検討を行っている。

研究所の適切性については、研究所ごとに運営委員会、「研究室長会議」「所員会議」等を通じて定期的に点検・評価している。

各センター等では、定期的なミーティングやイベント開催時の振り返り、年度末に総括あるいは報告書を作成し学長に提出するなど、各施設で定期的に検証を行っている。

しかしながら、研究所やセンター等における点検・評価については、各施設での実施にとどまっている。今後、附置施設等に関する点検・評価についても全学的な内部質保証のサイクルに組み込むことを検討しているため、着実に実施されたい。また、教育研究組織における自己点検・評価を定期的・効率的に実施するため、2019（令和元）年度にIR室を設置し、2020（令和2）年度から本格的に運用を開始しているため、客観的な根拠に基づく点検・評価が順調に進むことを期待する。

4 教育課程・学習成果

<概評>

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

学則において、「福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成すること」を教育の目的とし、その目的を果たすため、全学的な学位授与方針を定めている。

学部では、全学的な学位授与方針に基づき、各学科の専門性を考慮して、学位授与方針を「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学修経験と創造的思考力」の4項目ごとに設定しているが、「態度・志向性」「統合的な学修経験と創造的思考力」の内容がほぼ同一となっている学部・学科があるため、改善が望まれる。

研究科では、学位授与方針を学位ごとに定めておらず、授与する学位にふさわしい学習成果を示していない研究科もみられることから、適切な方針を定めるよう改善が求められる。

これらの学位授与方針は、大学ホームページで公表するだけでなく、各学部・研究科の履修要覧でも公表している。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

学位授与方針に掲げる資質や能力を修得できるよう、学部では学科ごとに、研究科では各専攻で課程ごとに教育課程の編成・実施方針を定め、大学ホームページで公表している。学生に対しては、履修要覧によって周知を図っている。

具体的には、学部においては、共通教育科目、専門科目及びその他必要とする科

目を順次性に配慮しつつ体系的に配置し、講義、演習、実験、実習、実技を適切に組み合わせたカリキュラム編成となっている。

研究科では、学位授与方針で設定した目標実現のために各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置し、講義、演習等でカリキュラムを編成している。ただし、教育課程の編成・実施方針を学位ごとに定めておらず、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示していない研究科もみられることから、適切な方針を定めるよう改善が求められる。

③ **教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。**

学部では、全学及び各学科の教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目として、共通教育科目、専門教育科目、その他必要とする科目の3区分を設けてカリキュラムを編成している。

共通教育科目は、「金城アイデンティティ科目」「金城コア科目」「金城展開科目」で構成され、建学の精神に掲げる「キリスト教」「女性」「国際理解」を重視した独創的なカリキュラムとなっている。全学生が「キリスト教学（1）」「キリスト教学（2）」「女性みらい」を必修科目として、関連科目を選択必修科目として履修することで、理念・目的に基づく教養を身につけることを目指しており、「福音主義キリスト教に基づく豊かな人間性と深い専門的学識をバランスよく兼ね備えた女性」を養成するという大学の教育理念に沿った取り組みとして高く評価できる。

専門教育では、各学科の専門性を踏まえた科目群編成になっているが、基本的には、その分野の基礎となる科目を第一に設定し、これを受けて根幹となる科目を配置し、その上に展開科目や卒業研究等が展開されている。こうした順次性や体系性は、各学科の教育課程の編成・実施方針やカリキュラム・マップで明示している。例えば、文学部英語英米文化学科では、基礎知識を修得するための基礎科目を初年次に配置し、英語の高度な運用能力を習得させるための基幹科目を設けることで、「読む・聞く・書く・話す」の英語の4技能を学べるよう科目を設定し、更に発展的な内容を学ぶための展開科目や演習科目を設けている。

さらに、「国際理解の教育」を実践する取り組みとして、通常の授業科目とは別に「副専攻（実践ビジネス英語）プログラム」を学部・学科横断で受講できるプログラムとして開設している点は高く評価できる。同プログラムは、応募者のなかから選抜された学生を対象に、1～3年次までの長期休暇期間を利用し、TOEIC[®]テスト対策、オンライン英会話の受講、1週間の海外研修を組み合わせることで英語力の強化を目指す内容で、担当教員による親身なサポートのもと、学部・学科を超えた学生同士が刺激し合うことで力を伸ばせる仕組みとなっており、目標とする TOEIC[®]テ

ストスコアの向上のみならず、同プログラム参加者は所属する学部・学科においてもよい波及効果をもたらしている。今後は専門科目との連携も検討されており、更なる発展が期待できる。

研究科においても、各領域で不可欠な専門教育科目を体系的に配置している。各専攻においては、講義や演習等の高度な専門的知識を修得するコースワークとともに、学位論文の作成や演習、実験、実習等の学術的水準の高い研究を主体的に進めるリサーチワークを適切に組み合わせた教育を行っている。例えば、文学研究科博士課程前期課程社会学専攻では、概論科目と特殊講義科目をコースワークとして、演習科目をリサーチワークとして配置し、リサーチワークの実践の場として「学位論文・特定課題発表会」等の機会を設けている。また、人間生活学研究科博士課程後期課程人間生活学専攻では、1年次にコースワークとして「特殊講義」を、また在学期間中はリサーチワークである「研究演習」を開講し、博士論文を執筆するための研究指導體制を整えている。

大学全体の教育課程の編成については、各学部・研究科及び「大学教務委員会」等関係部局からの自己点検・評価結果に基づき、「編成会議」で審議・確認し、改善の指示を行うこととなっている。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

単位の実質化を図るため、1年間に履修登録できる単位数の上限を設定している。ただし、成績優秀者の取扱い等例外規定の運用については、制度が形骸化しないよう、実態の把握を含む全学的な管理を行うことが望まれる。

授業の改善と向上に役立てるため、統一したシラバスを作成し、内容面の点検を毎年行い、授業内容とシラバスの整合性、適切性の検証のために「授業評価アンケート」を実施している。

また、履修登録前のオリエンテーションも有効に活用している。学部では、新入生だけでなく在学生にも履修指導のオリエンテーションの機会を設け、アドバイザー制度を活用して個別に履修指導を行っている。研究科でも、新入生・在学生双方のオリエンテーションで履修指導を行い、主指導教員・副指導教員を設けて履修指導を行うなど、効果的に教育を行うためきめ細かな履修支援体制をとっている。

履修登録した授業を適切に受講できるよう、学部では授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数の上限を定めており、講義科目で上限人数を超えてしまう場合は「授業アシスタント」を配置して対応している。

研究科の研究指導については、人間生活学研究科では、研究指導計画及び各年度の前定表を通じて、主指導教員と副指導教員による研究指導體制のもと中間発表会等を実施している。一方、文学研究科では、主指導教員と副指導教員による研究指導體制及び各種提出物とその提出期限のみを学生に提示していることから、研

究指導計画として学生にわかりやすく示すよう改善が望まれる。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

学則及び大学院学則に基づき、成績評価及び単位認定を行っている。他大学等で修得した単位等の認定についても、各学則規定に沿って当該学部の教授会や各研究科委員会で審議・承認することで、単位認定の適切性を確認している。これらの取扱いについては、履修要覧を通じて学生に周知している。なお、成績評価と単位認定に関わる全学的なルールは「大学教務委員会」が設定し、その運用を管理している。

卒業・修了要件についても学則及び大学院学則で規定し、学生に周知している。

2020（令和2）年度より、「編成会議」のもと、各学科における学習成果の把握と可視化のために、学位授与方針に対応した「卒業に関わる科目のルーブリック評価」の策定を進めている。現在、全学科において卒業論文や卒業制作、その他卒業に関わる科目について、その学習成果を評価するルーブリックを作成中であり、今後の実施手続及び体制の確立が期待される。

研究科における学位授与については、各研究科・各課程それぞれに学位論文審査基準を策定し、大学ホームページで公表しており、2021（令和3）年度からは、新年度オリエンテーション時に学生に周知することとなっている。しかし、学位論文審査基準の内容が博士課程前期課程及び同後期課程で同一の研究科があるため改善が求められる。

学士の学位については教授会、修士及び博士の学位については研究科委員会において審議し、その卒業又は修了を判定している。卒業判定と修了判定の結果は学長に報告したのち、学長が最終的に学位授与を決定することになっている。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

学位授与方針に明示した学生の学習成果について、学部では学位授与方針における各項目と科目の関係をカリキュラム・マップで確認できるようにしている。また、学生自身の履修状況に合わせて、カリキュラム・マップに示されている学位授与方針の項目ごとのポイントを自動計算できるシステムを整備し、2021（令和3）年度後期授業以降運用を開始する予定となっている。

また、これまで「教育効果数値目標」を設定し、結果の検証と次年度の目標設定に活用してきたが、2019（令和元）年度から、学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価するための全学的なアセスメント・ポリシーの運用を開始している。外部団体や民間企業が実施するアセスメント・テストを活用し、これらを複数回受験させることで、学生の学習成果の経年変化を測定している。さらに、全学的なアセスメントの実施体制として2019（令和元）年度にIR室を整備し、GPA

や学生へのアンケート、卒業要件取得単位数、各科目の成績等のデータを蓄積し、多角的に学生の学習成果を測定しようと努めている。今後はこれらデータの分析を踏まえた活用方法の構築が期待される。

ただし、研究科では、学位論文又は特定課題の審査を通じて学習成果を測定しているが、学位授与方針に学習成果を明示していないことから、これを適切に明示するとともに、学位授与方針に示した学習成果を適切に把握・評価するよう改善が望まれる。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2019（令和元）年度に、各学科・専攻及び教学関係の委員会等が毎年度策定する「活動計画（教学関係）」を「編成会議」において検討・承認する体制を確立し、2020（令和2）年度から本格的な運用を始めている。しかし、現時点では各学科・専攻等からの報告を承認するにとどまり、全学的な観点からの改善・向上の指示・支援を行うまでには至っていない。

また、点検・評価項目⑥で既述したとおり、全学的にアセスメント・ポリシーの運用を開始したばかりであるため、全学的及び学部・研究科レベルのアセスメントの実施体制や具体的な検証方法、分析結果の活用等の課題を解決することが期待される。

⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。（学士課程（専門職大学及び専門職学科）／大学院の専門職学位課程）

該当なし。

<提言>

長所

- 1) 「金城アイデンティティ科目」「金城コア科目」「金城展開科目」からなる共通教育科目は、「キリスト教」「女性」「国際理解」という建学の精神の要素を重視した金城学院大学らしい教育プログラムとなっている。特に「キリスト教学（1）」「キリスト教学（2）」「女性みらい」を必修科目とし、関連科目を選択必修科目として全学生共通で受講させていることは、「福音主義キリスト教に基づき、豊かな人間性と深い専門的学識をバランスよく兼ね備えた女性」を養成するという大学の教育理念に沿った取り組みとして、評価できる。
- 2) 「学院教育の三本柱」の1つである「国際理解の教育」の実践として、「副専攻（実践ビジネス英語）プログラム」を学部・学科を横断して開設していることは評価できる。担当教員による手厚いフォロー体制のもと、学部・学科を超えた学

生同士が刺激し合いながら英語力を強化できる仕組みとなっており、同プログラム参加学生は、目標とする TOEIC[®]テストスコアの向上のみならず、所属する学部・学科においてもよい波及効果をもたらしている。今後、専門科目との結びつきも検討されていることから、更なる発展が期待できる。

改善課題

- 1) 文学研究科及び人間生活学研究科の博士課程前期課程及び同後期課程では、学位ごとに学位授与方針を定めていない。また、人間生活学研究科では、授与する学位にふさわしい学習成果を示していないので、適切な方針を定めるよう改善が求められる。
- 2) 文学研究科及び人間生活学研究科の博士課程前期課程及び同後期課程では、学位ごとに教育課程の編成・実施方針を定めていない。また、人間生活学研究科の同方針は修了要件であり、教育課程の編成・実施に関する基本的な考え方を示していないので、適切な方針を定めるよう改善が求められる。
- 3) 文学研究科では、学位論文審査基準を博士課程前期課程及び同後期課程において同一の内容としており、課程ごとに明確にしていなため、改善が求められる。

5 学生の受け入れ

<概評>

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を、大学全体、学科、専攻それぞれに定め、適切に公表している。また、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針とも整合性がとれている。

学部では、各学科における学生の受け入れ方針において、教育課程の編成・実施方針に定める教育を受けるために必要な学力の3つの要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、大学ホームページや入学試験要項に詳細に記載しており、どのような学生を求めているか具体的に確認できる。一方、研究科では、各専攻で課程ごとに学生の受け入れ方針を定めているものの、人間生活学研究科博士課程前期課程及び同後期課程において、学生の受け入れ方針に、学生に求める入学前の学習歴・学力水準・能力等を示していないため、改善が望まれる。

学力水準の判定方法については、各学科・専攻の特色や学位授与方針を勘案し設定しており、入学試験要項に学科・専攻ごとに記載している。例えば、文学部日本語日本文化学科では、「一般入試」等で古文を含めた国語を必須としており、文学研究科博士課程前期課程国文学専攻でも、「一般入試」で「国文学・国語学・日本

語教育」の3科目から2科目選択する筆記試験を行うとともにその資質を問う口述試験を課すなど、学生の受け入れ方針に掲げた資質を問う試験を実施し、その学力水準を判定することとしており、学生の受け入れ方針に則した入学者選抜につながっている。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

学生の受け入れ方針に基づき多様な選抜方法を実施している。例えば、「一般入試」を複数日受験した場合に高得点2科目を合計して合否判定を行う「一般入試（前期）複数日評価型」や、高等学校在学時の取得資格や活動実績により評価する「一般公募制推薦入試資格・面接型」等、受験生の積極的な取り組みを評価する入学者選抜を行っている。

入学者選抜の実施については、「入学センター委員会」が行う体制となっている。また、学生募集・入学試験実施に関する事項を協議する「大学入試実施委員会」と、試験問題を厳正かつ適正に作成する「大学入試問題作成委員会」を設けており、各委員会が目的別に機能している。

学部における入学者選抜は、各学部の責任のもと実施しており、学科より選出された学科入試委員と教授会において選出された学部入試委員長による「学部入試委員会」を組織している。委員長については、選挙による選出や兼務・重任を認めないなど、責務の分散化や公正さが保たれている。一方、大学院の入学者選抜は、方針に基づき、各研究科の責任のもとに実施している。

合格者の決定については、学部では、学長室において作成する合格者案と、各学科において作成する合格者案を「入学センター委員会」で全学的視点から調整し、再度各学部・学科入試委員会等で合格者案を検討し、合格者判定教授会において最終的な合格者を決定している。研究科においては、各専攻で作成した合格者原案をもとに研究科委員会で審議し、合格者を決定している。

授業料及びその他必要経費、経済的支援については、入学試験要項や大学ホームページで公開している。

障がいのある受験希望者に対しては、「障害を持つ学生の入学・修学に関するガイドライン」を策定し、特別な措置やサポート体制を整えている。

2021（令和3）年度入学者選抜では、文部科学省及び独立行政法人大学入試センターの実施要項等を踏まえ、「入学センター委員会」で新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応・対策について決定し、「受験生応援サイト」、入学試験要項で適切に周知している。

以上のことから、学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜制度や運営体制を適切に整備し、複数段階の審議・確認を経ることで公正な入学者選抜を

実施している。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

入学定員と収容定員の適切な設定及び在籍者数の管理については、「入学センター委員会」において学長方針を確認し、全学的に共有している。

学部では、学長方針に基づき、各学科で前年度の「入学者選抜結果・統計資料」をもとに検討のうえ、試験種別の入学者数案を策定し、学部入試委員長を経て「入学センター委員会」において検討及び全学的な調整を行い、各学科の入学者数案を承認している。

学部の入学者数については、在籍学生数の過剰や未充足等が生じないように、4年間（薬学部は6年間）の定員超過率を検証しながら適正化を図っており、定員に対して適正な人数となっている。また、中途退学への対策としてアドバイザーによる個人面談等を行っており、退学率の低下につながっている。

一方、大学院では、収容定員に対する在籍学生数比率が低い研究科がある。学部学生を対象とした大学院説明会を複数回にわたり実施するほか、各種メディア媒体等を通じて学生募集に努めており、近年、入学者数に若干の増加がみられるものの、今後も具体的な対策、現状の改善に向けた取り組みについて検討し、大学院学生の確保に向けた改善が求められる。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生の受け入れの適切性は、各学部において、「入学者選抜結果・統計資料」をもとに前年度入学試験の検証と当年度入学試験の対応案を作成し、それを「入学センター委員会」で審議することで、全学的、定期的に点検・評価している。その結果、学科単位での選抜方法の変更や、「金城学院高等学校高大接続型推薦入試」への口頭試問の全学的な導入等を行った。今後は「推進会議」において、新入生アセスメント・テストの結果をもとに、学生の受け入れ方針に沿った学生募集となっているか等の検証を行うことも検討している。

研究科では、毎年度の入学者が確定した後、各研究科において点検・評価し、適宜、改善を行っている。

建学の精神や教育研究上の目的を踏まえた学生募集を実施するため、学生の受け入れ方針の表現を全学的に統一して2019（令和元）年度入学生から適用し、2020（令和2）年度入学試験からは、関連資料等においても各学科が求める学生像を受験生に向けて公表している。

以上のことから、学生の受け入れの適切性について点検・評価し、改善・向上の

取り組みを行っている。

<提言>

改善課題

- 1) 収容定員に対する在籍学生数比率について、文学研究科博士課程前期課程で0.40と低いため、研究科の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。

6 教員・教員組織

<概評>

- ① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

教員組織の編制方針について、専門教育及び共通教育、特色あるカリキュラム運営等に対応できる教員組織を編制すること、採用と昇任に際しては基準を設けて公正に行うことなどを「教員組織編成方針」に定め、各学科の教員基準、各学部の「専任教員等資格審査基準細則」等とともに、学内で共有している。また、大学の求める教員像を「金城学院の建学の精神である福音主義キリスト教に基づく女子教育の理念と、大学・学部・学科の設置理念・目的を十分に理解し、積極的に実践できる者」とし、教員募集の際に明示している。

- ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

教員組織の編制にあたっては、方針に基づき、大学及び大学院設置基準上の必要専任教員数を満たすよう各学科の教員基準を定めている。しかし、2020（令和2）年5月1日時点では、生活環境学部環境デザイン学科において、大学設置基準上原則として必要となる教授数が1名、人間科学部現代子ども教育学科においては、教職課程上必要となる専任教員数が1名不足していた。さらに、文学研究科博士課程後期課程社会学専攻では、大学院設置基準上必要となる研究指導補助教員数が1名不足していた。これに関し、同年度内に各学科の必要専任教員数を、2021（令和3）年度には研究科の必要専任教員数を充足している。教員組織の編制の最終責任者を学長としており、教員の定年退職等を見据えた長期的な人事計画のもと教員組織を編制しているが、今後は、計画的な人事を行い、必要な教員数が不足することのないよう教員を適切に配置することが望まれる。

教育研究上必要な教員組織となるよう、男女比や年齢構成、各学部に占める教授の割合、必修科目や選択必修科目を担当する専任教員の割合についても配慮している。

共通教育は「共通教育委員会」を中心に運営され、「共通教育科目担当コマ数計

算表」に基づき、全学部教員が共通教育科目を担当している。全学的な支援体制が整備されていることから、共通教育への熱心さがうかがえる。

研究科については、各研究科の資格審査規程等において研究科担当の教員資格を明確に定めており、授業計画及び学位論文指導上必要とされた際に適宜資格審査を行い、教育研究指導上必要な教員を適切に配置している。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

教員の募集、採用については、学部ごとに「専任教員等任用候補者審査規程」を設け、選考及び審査等について適切に規定している。

募集・採用を行う学科で「後任人事枠確認書」を作成し、学部教授会での審議を経て、「学部長会」、常任理事会での承認を得た後、当該学科は候補者の選考を開始する。選考にあたっては「専任教員等資格審査基準細則」において資格審査基準を定めており、審査には当該学科教員だけでなく他学科の委員を加えるなど、公平性の確保に努めている。また、業績等の評価基準を詳細に定めており、点数化することにより公正性を担保している。

昇任については、「専任教員昇任候補者審査規程」「専任教員等資格審査基準細則」に則り、「教育業績報告書」をもとに「学部人事委員会」にて基礎資格の確認を行って候補者を選出し、「資格審査委員会」において資格審査・認定を行っている。学部長は、教授会において候補者昇任の提案・採決を行い、決定した候補者について学長を通じて理事長に推薦し、常任理事会の議を経て承認しており、適切に実施している。

採用、昇任に関する規程及び規則を明文化し、審査基準を詳細に設けるだけでなく、審議経過を全学的に確認・審議する流れを確立しており、公平性に対し十分配慮されている。

④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

ファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）活動については、「FD委員会規程」に基づき、「大学FD委員会」を中心に実施しており、FD活動の基本方針やFD活動に関する調査研究、各学部・研究科のFD活動の検証、学生の授業評価、教員の教育研究環境の検証等を行っている。なお、「大学FD委員会」には「小委員会を置くことができる」とされているが、これまでに小委員会を設置したことはない。

「大学FD委員会」では、大学を取り巻く環境や直面する課題等について全学的に交流する場として、「FD交流集会」「FD・SD交流集会」を開催している。

また、毎年度、全学共通のテーマを提示し、各学科で「教育に関する学科別協議

会」(以下、「学科別協議会」という。)を開催している。同協議会では共通テーマとともに各学科の課題についても協議し、その結論や方向性について「大学FD委員会」に報告している。「学科別協議会」の開催にあたってはFD推進費用として補助金を支出することが規定されており、学科レベルでの活発な取り組みを促進することで教員が全学的な課題に取り組む体制を整えている。なお、FD活動に関する教員からの意見等は、「FD交流集会」等開催後のアンケート又は学部長を通じて提案されることになっている。

さらに、学部ごとでも「FD交流集会」を開催し、学部全体における課題の解決や共有を行っている。これについては「大学FD委員会」は積極的に関与していないが、今後はこうした学部単位で行われるFD活動についても「大学FD委員会」でとりまとめ、活動内容を共有することを検討しているため、実施を期待したい。

大学院固有のFD活動については、文学研究科では、毎年テーマを設けて独自のFD活動を行うほか、研究に関するFDとして外部講師を招いての講演会の開催、大学院学生への満足度等に関するアンケートの実施等を行っている。人間生活学研究科では、研究科主催によるFD講演会や研修会を1～3年のスパンで非定期的実施しているが、2018(平成30)年度以降は実施されていない。

教員の教育研究、社会活動等は「教育業績報告書」に基づく「学術研究データベース」によって確認でき、情報の共有につながっている。しかし、こうした情報については、特別研究費の支給や学内講演会等の講師依頼時の参考資料としての活用にとどまっており、大学全体の教育研究活動の改善・向上には直接的に結びついていないので、更に活用されることが望まれる。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教員組織の適切性について、取り組みごとに点検・評価を行っている。

求める教員像の変更等は「学科別協議会」で検討し、「大学FD委員会」を通じて全学的に共有している。

教員組織自体については、「学科別協議会」で教育研究上の理念・目的を協議・確認のうえ、これに基づいて教員組織を適切に構成し、新規採用時には教員配置、年齢構成を検討している。しかしながら、2020(令和2)年度に、大学及び大学院設置基準上必要な専任教員が、複数の学部・学科、大学院研究科において不足していたことは、自己点検・評価体制に問題があったと考えられる。

教員の教育研究活動については「教育業績報告書」をもとに研究費の支給、昇任等資格審査を行うことで点検・評価しているが、一部の教員の研究成果を共有するにとどまっている。薬学部では、独自の取り組みとして、「薬学部教員セミナー」を年2回開催し、これを通じて教員相互の研究意識向上と研究促進につなげている。

る。しかし、この取り組みは全学的には行われておらず、大学全体の教育研究活動の改善・向上には結びついていない。

今後、教育研究上必要な教員組織の編制について全学的な観点から管理すること、大学全体の教育研究活動の活性化に向けて取り組むことが望まれる。

7 学生支援

<概評>

- ① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

「福音主義キリスト教の精神に基づき、学識と品性を併せ持ち、「地の塩」「世の光」となって社会に尽くす女性」を養成するため、「学生支援方針」において、「修学支援」「学生生活支援」「キャリア形成支援」及び「支援組織の連携と学生参加」という4分野における支援の体制を規定し、これらを以て学生生活全般を支える基本的な方針としている。

学生支援に関する方針は、『規程集』において教職員間で共有している。

- ② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

修学支援としてアドバイザー制度を設けており、学生の能力に応じた補習教育、補充教育を適宜行っている。

「障害を持つ学生の入学・修学に関するガイドライン」を策定し、受験時・入学前・在学中の各段階で対応する体制を整備しており、保健センターを窓口として、アドバイザー・副学長・事務局が学生の状況について情報共有し、「障害学生支援協議会」で修学支援内容を協議する体制となっている。

交換留学生や提携大学からの受け入れ留学生に対しては、国際交流センターを中心に支援を行っている。日本語修得や日常生活の支援を行う「ランゲージ・パートナー」や、学生寮での共同生活をサポートする「レジデント・アシスタント」の制度を設けている。また、社会連携・社会貢献活動を通じて日本の社会・文化を学ぶことができるよう、留学生向けインターンシップ等を実施している。ただし、これらの支援の多くは交換・受け入れ留学生のみを対象としているため改善が望まれる。

経済的に修学が困難な学生には、大学独自の奨学金制度を整え支援を行っている。文学部英語英米文化学科においては、2018（平成30）年度より留学費用を全額サポートする制度（選考あり）を創設し実施している。

学生の心身の健康や保健衛生及び安全への配慮については、保健センター及び「学生相談室運営委員会」が、学内教職員や地域と連携しながら、救急処置、健康

相談等措置を行っている。

進路支援については、キャリア開発教育科目を1年次から3年次のインターンシップへとつなげて配置している。就職支援は、キャリア支援センターによる個別指導のほか、卒業生や就職活動を終えた学生が後輩に対する支援を行っている。研究科では、キャリア形成に結びつくよう、学内報告や関連学会での発表の奨励等、専門的な学識を高める機会を設けている。

正課外教育として、国際交流センターのもと学生ボランティア団体が中心となり、授業外における外国語修得や多文化理解を進める機会を提供している。その他、学科主催の演奏会や学会発表等、専門教育を踏まえた形での正課外の取り組みを積極的に実施している。また、優秀な成績を上げた個人・団体の表彰や、夏期合宿費補助制度による補助費の支給等、クラブ・サークル活動の活性化を図る工夫も行っている。

新型コロナウイルス感染症流行への対応としては、アンケートでの学生状況調査のほか、学長からの動画メッセージの配信や、「学生相談室」による遠隔相談（ビデオ通話・電話）等を実施した。

以上のことから、学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、学生支援を適切に行っている。

③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生支援の適切性については、全学的な観点及び取り組みごとの観点から点検・評価を実施している。

全学的な学生支援を主として担っている「大学学生生活委員会」において、自己点検・評価として、毎年度、当年度の活動計画に基づく活動報告を作成している。活動報告は、「推進会議」での確認及び検討を経て、改善・向上の指示がなされる体制となっている。

学科・専攻においては、「活動報告（教学関係）」の「DPにもとづく教育効果数値目標」に基づき、学生の進路に関する支援の適切性について、毎年度、自己点検・評価を行い、次年度の計画を立案している。この内容は「編成会議」において検討され、改善指示及びその改善結果の確認がなされる体制となっている。

また、IR室を中心に「学習と学生生活アンケート」を3年ごとに実施し、各部局等においては、その調査結果を通じて学生生活の実態と意識を把握するとともに、教育における諸課題の解決や学生を支援する取り組みの適切性を検証し、必要に応じて改善・向上を図っている。なお、2020（令和2）年度には、新型コロナウイルス感染症流行下における学生生活の状況を把握するため、実施予定を前倒し、内容を一部変更してアンケートを実施した。その結果は「推進会議」を通じて学内

に共有し、2020（令和2）年度入学生に対する積極的な支援等につなげた。

以上のことから、学生支援の適切性を検証し、必要に応じて改善・向上を図っている。

8 教育研究等環境

<概評>

- ① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。

「金城学院中期計画（2009～2014年度）」に基づき立案されたキャンパス整備計画「金城学院キャンパスマスタープラン」（以下、「KMP21」という。）において、「多様な交流を促す空間の創出」「安全で使い易く、質の高い教育・研究環境の整備」「自然と共生する環境配慮型キャンパスの整備」等をコンセプトに、2012（平成24）年度より段階的にキャンパス整備を進めてきた。「KMP21」については、教職員向けに学内説明会を複数回実施し、学内周知を図った。

なお、2020（令和2）年度を以て「KMP21」は完了したが、引き続き、教育研究の面においてより快適な大学キャンパス環境を実現するため、現在、具体的な計画を立案中である。

- ② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。

校地・校舎面積及び運動場、薬用植物園等の必要な施設・設備を整備しており、大学及び大学院設置基準を満たしている。施設・設備等の整備は教育研究活動を考慮し、年次計画に従って進めている。

安全・衛生管理については、「金城学院労働衛生管理規程」に基づき、定期的に「大学・幼稚園事業場労働衛生事業場委員会」を開催し、安全・衛生管理の状況を確認している。

ネットワーク環境やICT機器の整備については、マルチメディアセンターが業務を担っており、パソコン教室や自習室の設置、オンラインメール及びクラウドストレージの利用等、さまざまな観点から学生の学びを支援している。そのほか、無線LANアクセスポイントの設置、クラウド型の教育支援サービスの導入等も行っている。また、コンピュータ操作が得意な学生を、ティーチング・アシスタント（TA）とスチューデント・アシスタント（SA）として採用し、コンピュータを使用する授業の補助や自習生のサポートを行い、活用の促進を図っている。

学生向けの情報倫理教育は、「マルチメディアセンター講習会」や、マルチメディアセンターが導入しているeラーニング教材を用いた「情報リテラシー」の授業で実施している。教職員については、「金城学院個人情報保護規程」及び「研究倫

理指針」に基づき、「大学FD委員会」のもと、研究倫理教育及びコンプライアンス教育を毎年実施している。また、新任者に対しては、オリエンテーションでの「個人情報取扱いガイドライン」の説明及び個人情報保護に関するeラーニングの受講を課すことで、理解の徹底を図っている。

以上のことから、教育研究活動に必要な施設・設備を適切に整備し、充実した学びと快適なキャンパスライフの実現に努めている。

③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。

図書館については、専門的な知識を有する専任職員を適切に配置し、図書、学術雑誌等、十分な所蔵数を備えている。また、座席数、開館時間、学外情報へのアクセス、外部からアクセス可能な電子図書館等、学生の学習や教員の教育研究活動に配慮した利用環境を整備している。

以上のことから、図書館、学術情報サービスを提供するための体制は十分備えられており、学生を対象としたアンケート等から、適切に機能していると判断できる。

④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

真理の探究を行うとともに、全人教育を行い、品格を備えた真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する女性の育成をベースとして研究の推進を図ることを、研究に対する大学の基本的な考えとしている。

専任教員に対して「研究に一定の成果をあげる」ことを求め、教育研究活動を支援する環境や条件等を整備している。若手教員にまとまった研究期間を優先的に取得させる「特別研究期間制度」を2010（平成22）年度より導入し、研究人材育成に配慮している。役職者に対しては、担当授業科目数を一定程度減じる措置を講じることで研究活動時間の確保を図っている。また、学内における研究費助成制度も設けている。

なお、2020（令和2）年度には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、教員の状況を把握するため、IR室が教員を対象にアンケートを実施し、その結果を「推進会議」「編成会議」で全学的に共有し、個人研究費の次年度繰り越し等の対応策を適切に講じている。

以上のことから、教育研究活動を支援する環境を整備し、教育研究活動の適切な推進が図られていると判断できる。

⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

研究活動が適正に実施され、学術研究の信頼性と公正性を確保するため、基本的な考え方として「研究倫理指針」及び「研究活動における不正行為への対応に関する規程」を定めている。これらを運用することで、研究倫理を遵守した研究活動を推進しているほか、「研究活動上の不正行為防止のために」「公的研究費の不正使用防止のために」等のリーフレットを作成し、学内の教員・研究員向けに周知を図っている。また、学生向けにもリーフレット「Guidelines for RESEARCH ETHICS」を作成し、周知に努めている。

以上のことから、研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応していると判断できる。

⑥ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育研究等環境の適切性に関する点検・評価は、「推進会議」が実施する自己点検・評価の取り組みの一環として、「自己点検・評価ガイドライン」に基づき、各部署が毎年度、中期計画や毎年度の計画を踏まえた自己点検・評価結果をとりまとめ、「推進会議」がその内容をレビューする方法により実施している。

各部署では、3年ごとに実施している「学習と学生生活アンケート」でキャンパス環境や学生生活、授業環境等に関する満足度や要望を確認し、必要に応じて改善に取り組んでいる。2020（令和2）年度からは、アンケート結果等をIR室で分析し、「推進会議」「編成会議」において全学的に共有・活用する体制を整えている。

しかしながら、各部署の取り組みに対する改善・向上の指示・支援は十分とはいえないので、「推進会議」が全学的な内部質保証の観点からより積極的に関与していくことが期待される。

9 社会連携・社会貢献

<概評>

① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

大学の教育研究成果を適切に社会に還元するため、2009（平成21）年度に常任理事会が「産学官連携ポリシー」を策定し、「教育と研究の活性化を通じ普遍的な知を創造し、社会に貢献すること」を基本方針に据えた。同ポリシーは大学ホームページで公表している。また、2019（令和元）年度には、この基本方針をより明確化し、2020（令和2）年度からの「金城学院中期計画（2020年度～2024年度）」では、「女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究」「研究成果の社会への還元」「生涯学習」「産学官連携、地域連携」等の大学アクションプランを掲げ、学内での共有も図っている。

このように、社会連携・社会貢献に関する方針をアップデートし、学内外に適切に公表している。

② **社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。**

基本方針に沿って、大学間や自治体、企業等の学外機関や地域社会との連携にかかる協定を結び、実行に移している。その活動は、地域社会のニーズを踏まえた点に特徴があり、新型コロナウイルス感染症流行中も地域の要請を受けて活動を継続している。

「金城学院ファッション工房」では、高齢者や障がい者に対して魅力的で機能的な衣服の提案や製作等の支援を行っている。「KIDS センター」では、地域住民に対する子育て支援プログラムを展開している。「金城学院ファッション工房」及び「KIDS センター」では、学生スタッフがそれぞれ活動しており、授業外での学びの実践の機会ともなっている。「心理臨床相談室」では、大学院学生が相談研修員として修了生とともに業務に携わり、一般来談者による相談対応のほか、小・中学校の特別支援教育に対する指導・協力、相談会や電話による面接等によって、子育てに関わる人びとを継続的に支援している。「女性みらい研究センター」では、同窓会や卒業生から寄せられる声をもとに、女性が生きていくうえで抱える課題を学術的根拠に基づいて解決することを目指し教育研究を行っており、名古屋市や愛知県と共同で、女性の社会的な活躍をエンカレッジするプログラムの企画・開催も行っている。このように、各施設において、建学の精神を踏まえ、女性や子ども、障がい者等の支援を継続的に展開しており、学生スタッフ等が積極的に活動に参加することで、学生の学習成果の向上や将来設計・ライフプランを考える機会にもなっていることから、高く評価できる。

以上のことから、地域社会のニーズ、要請等を踏まえつつ、また積極的に社会連携を図るなどして、教育研究成果を適切に社会に還元している。

③ **社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

社会連携・社会貢献に関わる各部局内に設置した運営委員会等で、定期的に自己点検・評価を行っている。また、各種イベントの際には、適宜アンケートを実施するなど、改善・向上に取り組んでいる。なお、これら関係部局の活動に関する自己点検・評価の結果は、学長室又は「金城学院理事会」に対して報告しており、「推進会議」は直接的には関わっていない。ただし、中期計画におけるアクションプランに関するものについては、学長室の所掌として、毎年度の活動計画・活動報告を「推進会議」に提出し、審議している。

<提言>

長所

- 1) 建学の精神を踏まえ、女性や子ども、障がい者等の支援を継続的に行う組織として、各センター等が機能している。「金城学院ファッション工房」及び「KIDSセンター」では学生スタッフも活動しており、授業外での学びの実践の機会となっている。「心理臨床相談室」では、大学院学生が相談研修員として修了生とともに活動しており、相談対応のほか小学校訪問や相談会等による子育て支援も行っている。「女性みらい研究センター」では、女性特有の課題について研究し、名古屋市や愛知県とも共同で、女性の社会的な活躍を促進するためのプログラムの企画・開催を行っている。地域社会のニーズに応えた各活動に学生スタッフ等も積極的に参加することで、教育研究成果を社会に還元するとともに、学生の学習成果の向上や学生自身のライフプランを考える機会にもなっており、評価できる。

10 大学運営・財務

(1) 大学運営

<概評>

- ① 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために必要な大学運営に関する大学としての方針を明示しているか。

「VISION 2030」において、「教育」「研究」「地域社会との共生」「環境整備」の4分野におけるビジョンが示されているが、そのなかに大学運営に関する方針はみられない。「全学懇話会」において、学長方針を伝える機会が設けられているが、2021（令和3）年度の内容は、建学の精神、教育スローガン、大学の存在意義等についてであった。法人としての予算編成方針に、経営についての基本方針を策定し、「学部長会」を通じて全学的に共有している。

経営以外の大学運営の方針は示されていないことから、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために適切な大学運営に関する方針を策定し、構成員に周知するよう改善が望まれる。

- ② 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

学長をはじめとする役職者については、「金城学院職務権限及び権限委任に関する規程」に業務執行に関する各職位の責任と権限を定めている。

学長の選任は、「学長選考規程」及び「学長選考規程施行細則」に基づき行われ、

副学長、学部長、研究科長といった役職者の選任も、各規程に基づき実施している。

学長による意思決定及び執行体制については、「学長室会」での検討及び「学部長会」での協議を経て、大学又は大学院の運営に関わる事項については「大学評議会」又は「大学院委員会」に、内部質保証に関わる事項は「推進会議」に、教育活動に関わる事項は「編成会議」に議案を提示し審議している。これらの会議体は、いずれも学長が議長として招集し、その決定について責任を負っている。

こうした全学的な会議体のほかに、各学部の教授会規程において、各学部に教授会を設置し、学則や学部諸規則の制定や改廃をはじめ、教育課程、教員人事、学籍に関する事項等、学部に関わる事項を審議することを定めており、その役割が明確化されている。

法人における最高意思決定機関は「金城学院理事会」である。理事会で組織される常任理事会には、教学組織の長である学長も加わっており、学長は法人全体の経営にかかる意思決定にも関わっている。

危機管理対策については、「防災管理規程」を定め、防災計画に基づき危機管理対策を講じている。

以上のことから、関連規程等に従い、大学運営に関わる組織等を適切に設け、意思決定、権限執行の明確なプロセスを構築している。

③ 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

予算編成は、まず常任理事会において予算編成方針を決定し、理事会からの通達を受けて各部局が予算案を学長に提出する。提出された予算案に基づき、学長室において、次年度の事業計画、投資案件等について予算協議を行い、大学全体の予算案としてとりまとめ、理事長に提案する。理事長室での予算協議を経て、財務部にてとりまとめた後、年度末に開催される理事会、評議員会において、予算を決定している。

予算執行は「金城学院経理規程」「金城学院予算執行内規」及び「金城学院予算執行決裁規程」に則り厳格に行われており、特に100万円以上の単年度予算及び新規経常予算の執行については、実施、引合、契約のそれぞれの手続において決裁が必要となっている。出金及び入金処理については、会計伝票により相互チェックを実施している。

以上のことから、予算編成及び予算執行を行う体制を適切に整備できている。しかし、現時点では予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みがないため、体制の構築が望まれる。

④ 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けているか。また、その事務組織は適切に機能しているか。

「金城学院事務組織規程」に基づき、総務部、財務部、入試広報部、学生支援部、教育研究支援部、中学校・高等学校事務部の6つの部を設置し、業務内容の多様化、専門化に対応した職員体制を整備している。また、関係部署を指導監督し、本部機構と所管業務を円滑に行うため事務局長が置かれ、6つの部の連絡調整と事務組織の運営に関する事項を協議するため、隔週で「部課長会」を開催し、職員間で情報共有を図っている。

大学運営に関する全ての会議体には、所掌する事務職員が陪席することとなっている。また、「推進会議」「編成会議」や委員会組織等には関係する部局の事務職員が構成員として加わり、意思決定に参画するなど、教職協働体制を整備している。

事務組織の人員配置については、毎年度、業務内容の検証を踏まえたうえで、組織力の向上と人材育成を目的として定期的に異動を実施している。職員の採用については「金城学院職員就業規則」に基づき行っている。また、職員の意欲・資質の向上を図るため、ルーブリックを用いた評価制度を導入しており、評価結果に基づき強化すべき評価項目に沿ったフォロー研修を行うとともに、次年度のOJTや業務担当替え等、人材育成に活用している。

以上のことから、大学運営に必要な事務組織を設置し、各規程に沿って機能させている。

⑤ 大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲及び資質の向上を図るための方策を講じているか。

スタッフ・ディベロップメント（以下、「SD」という。）の取り組みに関しては、法人全体において、専任事務職員を対象とした研修助成制度を整備している。このほか、ハラスメント防止に関する研修をはじめ、教職員合同の「FD・SD交流集会」等を定期的・組織的に実施している。2019（令和元）年度末に改組された「編成会議」において、SDの組織的かつ体系的な実施に向け、整備を進めていくことが決定している。

2020（令和2）年度については、新型コロナウイルス感染症感染拡大への対応・対策のため、日程変更や資料配付による代替策を講じるなど、状況に応じた研修を実施し、「FD・SD交流集会」については、ウェブ開催したことにより、助教や事務職員の参加率が大幅に上昇した。

以上のことから、事務職員や教員の意欲や資質の向上を目的としたSDを組織的に実施していると判断できる。今後は研修助成制度の活用を促進し、人材育成をより一層推進していくことが期待される。

⑥ 大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果を

もとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

大学運営の適切性について、大学運営に関する方針はないが、中期計画で設定した到達目標の実現に向けて事業を推進することで、管理運営を行っている。また、毎年度、中期計画に基づく事業計画を策定し、年度末に事業報告としてその進捗を確認することにより、定期的な点検・評価を行っている。毎年度の事業報告や中期計画事業報告は理事会・評議員会で審議し、事業報告に基づき、次年度事業計画や次期中期計画を作成しており、改善・向上に向けた取り組みを行っている。

監査については、「金城学院内部監査規程」に則り、法人の内部監査室による業務監査を行っている。また、監査法人による明確かつ厳重な基準による監査を受けるとともに、寄附行為に基づき、監事の監査を受けている。

(2) 財務

<概評>

- ① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。

中・長期計画として、2030（令和12）年までに目指すべき大学像を提示した「VISION 2030」、学校法人の使命を達成するための視点からビジョンを定めた「金城学院中期計画（2020～2024）」及び大学の将来を見据えた施設整備のための「KMP21」を策定している。これらの立案段階において、学生生徒等納付金収入や人件費支出の見通しを作成している。また、2020（令和2）年度の予算編成方針において、健全経営の最重要指標として、教育活動資金収支差額比率の目標値を定めている。

ただし、「金城学院中期計画（2020～2024）」では、財政基盤の強化として「合理化・効率化による収益性向上」「安定的な資産運用・活用」「財源多様化による収入基盤の強化」という視点のみが示されていることから、数値目標や具体的な方策等を策定し、着実に実行することが望まれる。

- ② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。

財務関係比率については、「薬他複数学部を設置する私立大学」の平均と比べ、大学部門では、人件費比率が高く、教育研究経費比率が低くなっているほか、事業活動収支差額比率はプラスであるが、同平均を下回っている。また、法人全体では、事業活動収支差額比率はマイナスの傾向にあり、貸借対照表関係比率についても、純資産構成比率は平均を下回り、総負債比率は高くなっている。さらに、「要積立額に対する金融資産の充足率」は2018（平成30）年度以降、減少傾向にあることから、教育研究活動を安定して遂行するために十分な財政基盤を確立していると

はいえない。具体的方策や数値目標を明示した中・長期の財政計画のもと、財政基盤の確立に向けた改善に取り組むことが求められる。

外部資金については、総務担当が窓口となり、科学研究費補助金や受託研究・共同研究費の受け入れを行っており、受入金額の増額に向けてアクションプランの策定に向けた検討を行っている。また、「金城学院の教育活動に対する支援」等を行う「金城学院維持協力会」を発足させており、今後、これら取り組みの成果が期待される。

<提言>

改善課題

- 1) 「薬他複数学部を設置する私立大学」の平均と比べ、大学部門の人件費比率が高く、教育研究経費比率及び事業活動収支差額比率が低くなっており、「要積立額に対する金融資産の充足率」は経年的に減少傾向にあることから、財政基盤の確立に向けた改善に取り組む必要がある。今後は、数値目標や改善に向けて取り組むべき方策を明示した中・長期の財政計画を検討し、それを着実に実行することで財政を改善することが求められる。

以 上

金城学院大学提出資料一覧

点検・評価報告書
評定一覧表
大学基礎データ
基礎要件確認シート
大学を紹介するパンフレット

その他の根拠資料			
	資料の名称	ウェブ	資料番号
1 理念・目的	『金城学院 創立 130 周年史』		1-1
	建学の精神・教育スローガン	○	1-2
	金城学院大学学則	○	1-3
	金城学院大学学則別表	○	1-4
	金城学院大学大学院学則	○	1-5
	学則・教育研究上の目的・各種方針	○	1-6
	『学生ハンドブック 2020 プランタン』	○	1-7
	金城学院大学の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）	○	1-8
	「キリスト教学（1）」シラバス	○	1-9
	「キリスト教学（2）」シラバス	○	1-10
	礼拝	○	1-11
	クリスマス礼拝	○	1-12
	「国際情報概論」シラバス	○	1-13
	「W L I A」シラバス	○	1-14
	「W L I B」シラバス	○	1-15
	第 50 回大学教員キリスト教セミナーのお知らせ		1-16
	大学について	○	1-17
	FEATURES	○	1-18
	電車内シリーズ広告『車内の金城学院大学』	○	1-19
	金城学院大学 受験生応援サイト Lily Navi	○	1-20
	金城学院大学 VISION 2030		1-21
	『金城学院中期計画（2020 年度～2024 年度）』	○	1-22
	建学の精神・金城学院の使命	○	1-23
	金城学院大学の教育スローガン	○	1-24
	『2021 大学案内：金城学院大学』		1-25
	学校法人金城学院寄附行為	○	1-26
	金城学院規程集		1-27
2 内部質保証	金城学院大学に対する大学評価（認証評価）結果	○	2-1
	金城学院大学自己評価委員会規程		2-2
	金城学院大学自己点検・評価報告書	○	2-3
	2018 年度活動報告にかかる自己評価委員会議事録		2-4
	『金城学院中期計画（2015 年度～2020 年度）』	○	2-5
	『2017 年度金城学院大学自己点検・評価報告書』	○	2-6
	金城学院大学内部質保証の方針制定にかかる自己評価委員会資料（2019 年 11 月 6 日）		2-7
	金城学院大学内部質保証の方針	○	2-8
	内部質保証推進会議・自己点検・評価ガイドライン		2-9
	教育課程編成会議・教学マネジメントにおける自己点検・評価ガイドライン		2-10
	金城学院大学内部質保証推進会議規程の制定について（2019 年度第 7 回大学評議会・2019 年 12 月 04 日）		2-11
	金城学院大学教育課程編成会議規程の変更について（2019 年度第 7 回大学評議会・2019 年 12 月 04 日）		2-12
	金城学院大学内部質保証推進会議規程		2-13
	金城学院大学教育課程編成会議規程		2-14

2 内部質保証	アセスメント・ポリシーを基にした学修成果の可視化の取り組み (FD・SD 交流集会・2021 年 01 月 29 日)		2-15
	3 つのポリシーの変更手引き		2-16
	金城学院大学学長室規程		2-17
	金城学院第 3 期中期計画 (2020 年～2024 年度) 大学アクションプラン分掌案 (2019 年度第 1 回内部質保証推進会議)		2-18
	2020 年度活動計画審議 (2019 年度第 2 回内部質保証推進会議)		2-19
	2020 年度活動計画中間報告審議 (2020 年年度第 2 回内部質保証推進会議)		2-20
	自己点検・評価にかかるガイドラインとその実施について (2020 年度第 4 回内部質保証推進会議)		2-21
	2020 年度活動報告 (内部質保証推進会議提出)		2-22
	2021 年度活動計画 (内部質保証推進会議提出)		2-23
	内部質保証推進会議小委員会記録 (2020 年度活動報告・2021 年度活動計画)		2-24
	内部質保証推進会議と教育課程編成会議における小委員会について (2020 年 1 月 21 日学長室会議事録)		2-25
	2020 年度活動報告・2021 年度活動計画 (2020 年度第 5 回内部質保証推進会議)		2-26
	金城学院大学 I R 室規程		2-27
	金城学院第 3 期中期計画 (2020 年～2024 年度) 大学アクションプラン分掌案 (2019 年度第 6 回教育課程編成会議)		2-28
	2020 年度活動計画審議 (2020 年度第 1 回教育課程編成会議)		2-29
	2020 年度活動計画中間報告審議 (2020 年度第 2 回教育課程編成会議)		2-30
	2020 年度活動計画 (教学関係) 策定に関する日程修正について		2-31
	2019 年度教育効果数値目標 (総括表)		2-32
	言語センター委員会副専攻プログラム 2017 年度報告書		2-33
	『2018 年度金城学院大学自己点検・評価報告書』	○	2-34
	金城学院大学の国際交流に関する方針と将来構想について		2-35
	2020 年度第 5 回教育課程編成会議 (2021 年 01 月 27 日)		2-36
	コロナ禍におけるアンケート (学生対象) 結果について (2020 年度第 5 回内部質保証推進会議報告)		2-37
	個人研究費の次年度繰り越しについて		2-38
	金発第 492 号・令和 2 年 3 月 26 日付変更届における専任教員数不足の件について (報告)		2-39
	大学基準協会への「改善報告書」について		2-40
	薬学教育評価機構『金城学院大学薬学部・薬学教育評価評価報告書』2019 年	○	2-41
	薬学教育評価機構総合評価評議会「「I 総合判定の結果」の但し書きに対する改善報告についての審議結果」	○	2-42
	名古屋市守山区『金城学院大学 2019 年度点検・評価報告書』に基づく外部評価結果について		2-43
	第 4 回内部質保証推進会議 (2021 年 01 月 13 日)		2-44
	基本情報・データ	○	2-45
	履修要覧 (2009 年度以降)	○	2-46
	金城学院大学シラバス検索システム	○	2-47
	実務経験のある教員による授業科目一覧表 (学科別)	○	2-48
	データで見る実績	○	2-49
	学術研究データベース	○	2-50
	研究の適正な推進について	○	2-51
	金城学院大学リポジトリ	○	2-52
	内部質保証の方針	○	2-53
	認証評価	○	2-54
	教育研究の質向上の取り組みについて	○	2-55
財務 事業・財務報告	○	2-56	
金城学院情報公開規程		2-57	
『with Dignity vol. 34』2020 年 7 月号	○	2-58	
金城学院大学 IR 室規程の制定について (2019 年度第 7 回大学評議会・2019 年 12 月 04 日)		2-59	
『みなさんの成長をサポートする本学の取り組みについて (2019)』	○	2-60	
『2019 年度以降の共通教育科目改定について (答申)』		2-61	

3 教育研究 組織	教育研究組織	○	3-1
	事務組織	○	3-2
	現代子ども教育学科名称変更_2017年度第9-10回大学評議会		3-3
	薬学科「教育研究上の目的」の変更にかかる変更の趣旨と当該大学評議会資料		3-4
	金城学院大学人文・社会科学研究所規程		3-5
	金城学院大学消費生活科学研究所規程		3-6
	金城学院大学キリスト教文化研究所規程		3-7
	金城学院大学心理臨床相談室規程		3-8
	金城学院大学KIDSセンター規程		3-9
	ごあいさつ 金城学院大学 KIDS センター	○	3-10
	金城学院大学女性みらい研究センター規程		3-11
	女性みらい研究センターとは 女性みらい研究センター	○	3-12
	金城学院大学 2018年度 志願・入学状況 (2018年5月1日現在)	○	3-13
	金城学院大学 2019年度 志願・入学状況 (2019年5月1日現在)	○	3-14
	金城学院大学 2020年度 入学者推移状況 (2020年5月1日現在)	○	3-15
	金城学院大学総合戦略協議会規程		3-16
	第18回総合戦略協議会案内 20131007		3-17
	金城学院大学履修規程		3-18
	『履修要覧大学編』「副専攻(実践ビジネス英語)プログラムについて」	○	3-19
	副専攻(実践ビジネス英語)プログラム2020		3-20
2020年度学長室活動計画		3-21	
4 教育課程・ 学習成果	金城学院大学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	○	4-1
	教育研究上の目的:文学研究科	○	4-2
	教育研究上の目的:人間生活学研究科	○	4-3
	学部・学科の3つのポリシー(2020年度の入学生)	○	4-4
	研究科・専攻の3つのポリシー(2020年度の入学生)	○	4-5
	『履修要覧文学部編2020』	○	4-6
	『履修要覧生活環境学部編2020』	○	4-7
	『履修要覧国際情報学部編2020』	○	4-8
	『履修要覧人間科学部編2020』	○	4-9
	『履修要覧薬学部編2020』	○	4-10
	『大学院履修要覧』	○	4-11
	金城学院大学の3つのポリシー(2020年度の入学生)	○	4-12
	日本語日本文化学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-1
	英語英米文化学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-2
	外国語コミュニケーション学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-3
	音楽芸術学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-4
	生活マネジメント学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-5
	環境デザイン学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-6
	食環境栄養学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-7
	国際情報学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-8
	現代子ども教育学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-9
	多元心理学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-10
	コミュニティ福祉学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-11
	薬学科の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-13-12
	国文学専攻の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-14-1
	英文学専攻の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-14-2
	社会学専攻の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-14-3
	消費者科学専攻の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-14-4
	人間発達学専攻の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-14-5
	人間生活学専攻の教育課程編成の方針(カリキュラム・ポリシー)	○	4-14-6
	英語英米文化学科カリキュラム・マップ	○	4-15
	「古典文学特殊講義(2)」シラバス	○	4-16
	金城学院大学共通教育委員会規程		4-17
2020年度シラバスの内容確認及び校正について		4-18	
「情報リテラシー」シラバス	○	4-19	

4 教育課程・ 学習成果	「入門演習」シラバス	○	4-20
	金城学院大学オープンキャンパス 2019 第1回 7/14(日)	○	4-21
	出前授業 金城学院大学	○	4-22
	金城学院高等学校への説明にかかる資料		4-23
	高大接続連携授業「大学での学び」シラバス (2019 年度)		4-24
	「社会学概論(1)」シラバス	○	4-25
	「国際社会論演習 I (1)」シラバス	○	4-26
	「人間発達学特殊講義Ⅲ」シラバス	○	4-27
	「人間発達学研究演習 I」シラバス	○	4-28
	人間生活学研究科中間発表会の実施についての資料(2018, 2019)		4-29
	大学院文学研究科学位論文・特定課題発表会開催のご案内	○	4-30
	2019年度金城学院大学大学院文学研究科学位論文・特定課題発表会	○	4-31
	金城学院大学教務委員会規程		4-32
	金城学院大学文学部教務委員会規程		4-33
	金城学院大学評議会規程		4-34
	「キャリア開発A」シラバス	○	4-35
	「キャリア開発B」シラバス	○	4-36
	「女性みらい」シラバス	○	4-37
	「キャリアプロジェクト」シラバス	○	4-38
	「薬学概論 (2)」シラバス	○	4-39
	「ソーシャルウーマン総論」シラバス	○	4-40
	シラバス作成上の注意事項(2021)		4-41
	授業アンケートアンケート結果 (全学)		4-42
	『VOX POP』 vol. 10		4-43
	金城学院大学シラバス検索システム	○	4-44-1
	開講表から見るシラバス	○	4-44-2
	2014 年度金城学院大学アクティブラーニング実施状況調査報告		4-45
	2019 年度 アクティブ・ラーニング型授業について		4-46
	「薬学セミナー (1)」シラバス	○	4-47
	「薬学PBL (1)」シラバス	○	4-48
	薬学科日本高等教育開発協会表彰に関する根拠資料		4-49
	文学部日本語日本文化学科モデル時間割表		4-50
	『学生個別指導の手引き 2020 年度版』		4-51
	2019 年度文学研究科研究指導報告書		4-52-1
	2019 年度人間生活学研究科修士論文研究計画書・後期課程研究経過報告書		4-52-2
	入学者が多いなどの事由による臨時増コマ申請基準		4-53
	『教育力 授業サポート BOOK』		4-54
	6月8日(月)～6月20日(土)の対面授業について		4-55
	『教学マネジメントにおける自己点検・評価ガイドライン』		4-56
	2020 年度活動計画 (教学関係)		4-57
	新型コロナウイルス緊急対策本部の設置について		4-58
	大学教務委員会_05月11日以降の遠隔授業について (2020.04.17)		4-59
	大学教務委員会_6月1日以降の授業運営について		4-60
	マルチメディアセンター2020 コロナ対応		4-61
	遠隔授業調整委員会委員の指名について		4-62
	学則第 15 条に定める外国の大学又は短期大学に留学して修得した単位の認定基準について		4-63
	金城学院大学文学部教授会規程		4-64
	金城学院大学生活環境学部教授会規程		4-65
	金城学院大学国際情報学部教授会規程		4-66
	金城学院大学人間科学部教授会規程		4-67
金城学院大学薬学部教授会規程		4-68	
2019 年度文学部教授会議事録		4-69-1	
2019 年度生活環境学部教授会議事録		4-69-2	
2019 年度国際情報学部教授会議事録		4-69-3	
2019 年度人間科学部教授会議事録		4-69-4	
2019 年度薬学部教授会議事録		4-69-5	

4 教育課程・ 学習成果	2019 年度文学研究科委員会議事録		4-69-6
	2019 年度人間生活学研究科委員会議事録		4-69-7
	成績訂正件数 (2020 前期)		4-70
	英語・外国語成績評価調査 (2019 年度後期)		4-71
	薬学部ディプロマポリシーのルーブリック評価表		4-72
	金城学院大学薬学部における問題解決型学習の共通ルーブリック評価(1~4 年生)		4-73
	金城学院大学薬学部におけるヒューマニズム教育・倫理教育の共通ルーブリック評価(1~6 年生)		4-74
	薬学部薬学科卒業論文作成マニュアル		4-75
	薬学部薬学科卒業論文評価方法マニュアル		4-76
	学科別協議会報告書 2020		4-77
	金城学院大学大学院学位審査基準	○	4-78-1
	学位審査基準の公開とその共有について (文学研究科・人間生活学研究科)		4-78-2
	文学研究科修士論文審査について		4-79
	金城学院大学学位規程		4-80
	2020 年度金城学院大学全学行事予定		4-81
	金城学院大学大学院学位規程		4-82
	2019 年度各学部卒業判定教授会議事録		4-83
	2019 年度文学研究科修了判定研究科委員会議事録		4-84
	2019 年度人間生活学研究科修了判定研究科委員会議事録		4-85
	2019 年度学生異動報告		4-86
	金城学院大学大学院委員会規程		4-87
	K-PORT 改修案		4-88
	「ピアノ奏法 (1)」シラバス	○	4-89
	「声楽 (1)」シラバス	○	4-90
	「管楽器奏法 (1)」シラバス	○	4-91
	「ヤマハグレード取得講座 A」シラバス	○	4-92
	ヤマハ演奏グレード 2 級試験に音楽芸術学科学学生 2 名がダブル合格	○	4-93
	2020 年度 新入生アンケート		4-94
	金城学院大学 2018 年度 学習と学生生活アンケート		4-95
	卒業時アンケート 2019		4-96
	授業評価アンケート 2017		4-97
	2019 年度本学設置の資格課程に係る試験合格者数等の結果		4-98
	学期目標と達成評価シート		4-99
	生活環境学部生活マネジメント学科_「学科指定資格」説明文書		4-100
生活環境学部食環境栄養学科_2020 年度_3、4 年生習熟度確認年間スケジュール		4-101	
薬学部卒業研究発表プログラム 2020		4-102	
5 学生の受 け入れ	金城学院大学の入学者選抜の方針 (アドミッション・ポリシー)	○	5-1
	『金城学院大学 2021 年度入学試験要項』		5-2
	2021 年度金城学院大学大学院入学案内		5-3-1
	2021 年度金城学院大学大学院文学研究科 [博士課程] 在学生特別入試案内		5-3-2
	2021 年度金城学院大学大学院人間生活学研究科 [博士課程] 在学生特別入試案内		5-3-3
	2022 年度金城学院大学大学院入学案内初校		5-3-4
	日本語日本文化学科の 3 つのポリシー (2020 年度の入学生)	○	5-4
	国文学専攻の入学者選抜の方針 (アドミッション・ポリシー)	○	5-5
	『2021 年度金城学院大学大学院_入学募集要項・願書』		5-6
	学費 入試情報	○	5-7
	高等教育の修学支援新制度	○	5-8
	金城学院大学の奨学金	○	5-9
	外部団体が行う奨学金等	○	5-10
	金城学院大学入学センター規程		5-11
	金城学院大学入学センター委員会規程		5-12
	金城学院大学大学入試実施委員会規程		5-13
	金城学院大学大学入試問題作成委員会規程		5-14
	金城学院大学文学部教授会選挙規程		5-15
	金城学院大学生生活環境学部教授会選挙規程		5-16

5 学生の受け入れ	金城学院大学国際情報学部教授会選挙規程		5-17	
	金城学院大学人間科学部選挙規程		5-18	
	金城学院大学薬学部教授会選挙規程		5-19	
	2021年度文学研究科委員会各委員長・委員一覧		5-20	
	2020年度生活環境学部校務分担		5-21	
	金城学院大学大学院文学研究科委員会運営規程		5-22	
	金城学院大学大学院人間生活学研究科委員会運営規程		5-23	
	学長室会議事録_2020年12月04日		5-24	
	2021年度一般公募推薦入試合格者数案の決定にかかる入学センター委員会議事録		5-25	
	2019年度各学部合格者判定教授会_推薦入学選考(指定校制・一般公募制)		5-26	
	2020年度行事予定 入試・広報関係分		5-27	
	金城学院大学学部長会規程		5-28	
	2019年度各研究科合格者判定教授会_春期入試(一般・社会人)判定		5-29	
	障害を持つ学生の入学・修学に関するガイドライン		5-30	
	入学センター委員会議事録		5-31	
	令和3年度大学入学者選抜実施要項について(通知)		5-32	
	令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項		5-33	
	新型コロナウイルス感染症に伴う2021年度金城学院大学入学者選抜の対応について		5-34	
	2020年度入試の学長方針について(2019年度入学センター委員会)		5-35	
	入学者選抜結果・統計資料		5-36	
	2019年度入試の検証と対応(2019年度入学センター委員会)		5-37	
	増コマ申請基準		5-38	
	金城学院大学 2019年度 退学・除籍者数	○	5-39	
	金城学院大学大学院 2020年度学生数(2020年5月1日現在)	○	5-40	
	2019年度_文学研究科進学説明会		5-41	
	生活環境学部環境デザイン学科における一般公募制推薦入試(小論文型)の廃止について		5-42	
	『2019年度金城学院大学自己点検・評価報告書』	○	5-43	
	2021年度金城学院高等学校高大接続型推薦入試学生募集要項		5-44	
	「ファンドレイジング演習」シラバス(実験実習費の項の例)	○	5-45	
	『WINDOWS vol.5』	○	5-46	
	金城学院大学の3つのポリシー(2019年度の入学生)	○	5-47	
	学部・学科の3つのポリシー(2019年度の入学生)	○	5-48	
	6 教員・教員組織	金城学院大学生生活環境学部生活マネジメント学科専任教員(情報学)の募集について		6-1
		各学科における求める教員像(2020年度教育に関する学科別協議会資料)		6-2
文学研究科の求める教員像			6-3	
人間生活学研究科に求められる教員像			6-4	
金城学院大学教員組織編成方針			6-5	
各学科の教員基準(大学院含む)			6-6	
金城学院大学 専任教員数(2020年5月1日現在)		○	6-7	
共通教育科目担当コマ数計算表			6-8	
金城学院大学特別契約教員任用規程			6-9	
金城学院大学短期契約外国語教員(学科所属)任用規程			6-10	
金城学院大学短期契約外国語教員(言語センター)任用規程			6-11	
金城学院大学助教任用規程			6-12	
金城学院大学非常勤講師任用規程			6-13	
『文部科学統計要覧(令和2年版)』「11.大学:教員数(大学)」		○	6-14	
金城学院大学大学院文学研究科教員資格審査規程			6-15	
金城学院大学大学院人間生活学研究科教員資格審査規程			6-16	
金城学院大学大学院文学研究科教員資格審査内規			6-17	
金城学院大学大学院人間生活学研究科教員資格審査内規			6-18	
金城学院大学専任教職員の就業にかかる申し合わせ			6-19	
金城学院専任職員給与規程			6-20	
金城学院大学アイデンティティ・教養科目委員会規程			6-21	
金城学院大学情報教育科目委員会規程			6-22	
金城学院大学S&E教育科目委員会規程			6-23	

6 教員・教員 組織	金城学院大学キャリア開発教育科目委員会規程		6-24
	金城学院大学教職課程委員会規程		6-25
	金城学院大学言語センター委員会規程		6-26
	金城学院大学言語センター規程		6-27
	金城学院大学国際交流センター委員会規程		6-28
	金城学院大学国際交流センター規程		6-29
	金城学院大学文学部専任教員等任用候補者審査規程		6-30
	金城学院大学生活環境学部専任教員等任用候補者審査規程		6-31
	金城学院大学国際情報学部専任教員等任用候補者審査規程		6-32
	金城学院大学人間科学部専任教員等任用候補者審査規程		6-33
	金城学院大学薬学部専任教員任用候補者審査規程		6-34
	金城学院大学文学部専任教員昇任候補者審査規程		6-35
	金城学院大学生活環境学部専任教員昇任候補者資格審査規程		6-36
	金城学院大学国際情報学部専任教員昇任候補者資格審査規程		6-37
	金城学院大学人間科学部専任教員昇任候補者資格審査規程		6-38
	金城学院大学薬学部専任教員昇任候補者資格審査規程		6-39
	金城学院大学文学部専任教員等資格審査基準細則		6-40
	金城学院大学生活環境学部専任教員等資格審査基準細則		6-41
	金城学院大学国際情報学部専任教員等資格審査基準細則		6-42
	金城学院大学人間科学部専任教員資格審査基準細則		6-43
	金城学院大学薬学部専任教員等資格審査基準細則		6-44
	金城学院大学薬学部助教の採用に関する申合せ		6-45
	金城学院大学文学部人事委員会規程		6-46
	金城学院大学生活環境学部人事委員会規程		6-47
	金城学院大学国際情報学部人事委員会規程		6-48
	金城学院大学人間科学部人事委員会規程		6-49
	金城学院大学薬学部人事委員会規程		6-50
	2019年度各学部昇任人事教授会議事録（文学部・国際情報学部・薬学部）		6-51
	後任人事枠の確認等の手続きについて		6-52
	2019年度文学部教授会議事録（採用人事）		6-53
	金城学院大学FD委員会規程		6-54
	2020年度FD・SD交流集会（全学交流ダイアログ）のご案内		6-55-1
	FD交流集会およびFD・SD交流集会出席率		6-55-2
	2020年度第4回大学評議会資料（教育に関する学科別協議会案内）		6-56
2020年度第2回大学FD委員会議事録		6-57	
教育に関する学科別協議会の補助申請について		6-58	
全学交流ダイアログ開催趣旨		6-59-1	
全学交流ダイアログ2019		6-59-2	
岩崎公弥子「中高大が連携した学ぶ力の育成：Dignityを通して」（2020年10月28日・全学交流ダイアログ内）		6-60	
金城学院大学学術研究データベース	○	6-61	
2011年度からの研究費の見直しについて（研究費支給に関する申合せ）		6-62	
『金城学院大学薬学部自己点検・評価書』（2018年）	○	6-63	
7 学生支援	「金城学院大学学生支援方針」		7-1
	『学生ポータルシステム（K-PORT）「教員編」』		7-2
	K-カルテ（イメージ）		7-3
	生活マネジメント学科・勉強会等案内		7-4
	学内での国際交流	○	7-5
	国際交流サポーターズ（KING）	○	7-6
	concerts-schedule：金城学院大学 文学部 音楽芸術学科	○	7-7
	食環境栄養学科3年生が郡上素材新商品開発コンペに入賞・入選	○	7-8-1
	食環境栄養学科2年生が「糖尿病いきいきレシピコンテスト」で最優秀賞を受賞	○	7-8-2
	名古屋市・内閣府食品安全委員会共催 食の安全に関する意見交換会	○	7-8-3
	食環境栄養学科の学生が考案したレシピが朝日新聞主催「食育レシピコンテスト」にて「ユニー賞」「JA あいち経済連賞」を受賞	○	7-8-4
	学びについて：金城学院大学への留学を希望する皆さんへ	○	7-9

7 学生支援	Kinjo O-MO-TE-NA-SHI Study Program		7-10
	『金城学院大学留学生のしおり 2020 年度版』		7-11
	金城学院大学留学生会館規程		7-12
	金城学院大学外国人留学生の授業料減免規程		7-13
	2017 年度第 1 回障害学生支援協議会記録		7-14
	障がい学生配慮のお願い文書 (2017 年)		7-15
	金城学院緊急奨学金規程		7-16
	金城学院緊急奨学金規程施行細則		7-17
	金城学院大学父母会奨学金要綱		7-18
	金城学院大学利子補給奨学金規程		7-19
	金城学院大学貸与奨学金規程		7-20
	金城学院みどり野会奨学金規程		7-21
	奨学制度	○	7-22
	全額サポート通訳翻訳留学プログラム 説明会 2020		7-23
	全額サポート通訳翻訳留学プログラム		7-24
	金城学院大学大学院特別奨学金規程		7-25
	金城学院大学大学院学生会発表旅費交通費助成規程		7-26
	新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けて家計が急変した方への支援 - JASSO	○	7-27
	新型コロナウイルスの影響による金城学院緊急奨学金の特例措置について		7-28
	金城学院同窓会「みどり野会」から困窮している学生へ多額の寄付	○	7-29
	新型コロナウイルスに対する修学支援について	○	7-30
	新型コロナウイルスの影響による遠隔授業環境整備支援について	○	7-31
	2020 年度履修費等取扱要項		7-32
	文学部音楽芸術学科「指揮法」実験実習費教授会資料		7-33
	文学部音楽芸術学科「指揮法」シラバス		7-34
	『履修要覧別冊文学部編 2019』		7-35
	『履修要覧別冊生活環境学部編 2019』		7-36
	『履修要覧別冊国際情報学部編 2019』		7-37
	『履修要覧別冊人間科学部編 2019』		7-38
	『履修要覧別冊薬学部編 2019』		7-39
	金城学院大学ハラスメントの防止と対応に関する規程		7-40
	ハラスメントへの対応	○	7-41
	金城学院事務組織規程		7-42
	金城学院大学学生相談室規程		7-43
	心身の健康等のサポート	○	7-44
	健康診断受診者数 2014 年度～2019 年度		7-45
	金城学院大学学生相談室スクールカウンセラー任用規程		7-46
	学生相談室の利用状況		7-47
	学生相談室	○	7-48
	「日文キャリア」シラバス	○	7-49
	「基礎演習」シラバス	○	7-50
	キャリア懇談会の案内		7-51
	キャリアエール	○	7-52
	キャリアサポート体制	○	7-53
	就職支援の取組について-親子就活のススメ-		7-54
	キャリア・アップ講座	○	7-55
	講座案内インデックス	○	7-56
2019 年度金城学院大学大学院文学研究科学位論文・特定課題発表会	○	7-57	
2018 年度金城学院大学大学院文学研究科学位論文発表会	○	7-58	
『金城学院大学大学院文学研究科論集』	○	7-59	
『金城学院大学大学院人間生活学研究科論集』	○	7-60	
金城学院大学学生会規約		7-61	
金城学院大学学生表彰規程		7-62	
クラブ・サークル夏期合宿費の補助について(夏期合宿補助申請資料)		7-63	
コロナ禍におけるアンケート(教員対象)結果について(2020 年度第 5 回教育課程編成会議報告)		7-64	
KINJO MANNER BOOK (2020)		7-65	

7 学生支援	金城学院大学と岐阜県・三重県との就職支援に関する協定書		7-66
	金城学院大学大学院長期履修学生規程		7-67
8 教育研究 等環境	キャンパスリニューアル	○	8-1
	金城学院キャンパスマスタープラン(KMP21)・大学		8-2
	『金城学院中期計画(2009年度～2014年度)』	○	8-3
	新校舎E1棟 誕生	○	8-4
	エラ・ヒューストン記念礼拝堂	○	8-5
	学内Wi-Fi		8-6
	eduroam JP - Participants	○	8-7
	各教室のコンピュータ及びソフトウェア一覧表(2020年度後期)		8-8
	長期修繕更新費集計表		8-9
	金城学院労働衛生管理規程		8-10
	金城学院労働衛生事業場委員会規程		8-11
	2019年度大学・幼稚園事業場委員会議事録		8-12
	労働衛生事業場委員会からの要望を受けての労働環境改善活動		8-13
	新型コロナウイルスに関するお知らせ ～本学の対応についてのご連絡～(更新)	○	8-14
	人にやさしい街づくりの推進に関する条例・規則	○	8-15
	本部棟連絡通路エレベーター設置工事資料		8-16
	ラーニングコモンズ	○	8-17
	マルチメディアセンター	○	8-18
	2020年度講習会テキスト		8-19
	金城学院個人情報保護規程	○	8-20
	金城学院大学研究倫理指針	○	8-21
	教職員の出席率・受講率		8-22
	標的型攻撃メール対応訓練結果報告について		8-23
	図書館統計		8-24
	金城学院大学図書館規程		8-25
	金城学院大学図書館委員会規程		8-26
	金城学院大学図書館資料収集・管理規程		8-27
	データベース一覧	○	8-28
	データベースの紹介	○	8-29
	令和元年度学術情報基盤実態調査:大学図書館編 3蔵書数	○	8-30
	2020年度第2回図書館委員会議事録		8-31
	CAT接続機関一覧	○	8-32
	2008/03/26日米ILL日本側新規参加館 合計145館	○	8-33
	国立国会図書館デジタルコレクション - 図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館一覧(愛知県)	○	8-34
	WorldCat Discovery Services	○	8-35
	私立大学図書館協会加盟図書館名簿・東海	○	8-36
	東海地区大学図書館協議会加盟館一覧	○	8-37
	リンク集	○	8-38
	利用案内(学内者用)	○	8-39
	令和元年度学術情報基盤実態調査票回答		8-40
学外から情報収集(大学図書館)		8-41	
郵送貸出案内		8-42	
金城学院大学特別研究期間制度規程		8-43	
金城学院大学教育改革助成費規程		8-44	
金城学院大学父母会海外・国内研修助成費規程		8-45-1	
金城学院大学父母会特別研究助成に関する要領		8-45-2	
金城学院大学特別研究助成費取扱規程		8-46-1	
金城学院大学特別研究助成費取扱細則		8-46-2	
研究支援金の配分に関する申し合わせ		8-47	
令和3年度科学研究費助成事業の申請について		8-48	
研究支援	○	8-49	
学内助成		8-50	
学外助成		8-51	

8 教育研究 等環境	金城学院大学研究活動における不正行為への対応に関する規程	○	8-52
	金城学院大学研究資料等の保存に関する規程	○	8-53
	研究活動上の不正行為防止のために：学部学生向け		8-54
	研究活動上の不正行為防止のために：教員・研究員向け	○	8-55
	金城学院大学動物実験委員会規程		8-56
	金城学院大学動物実験指針	○	8-57
	体育館アリーナの空調設備の設置にかかる体育施設運営員会議事録及び学長への要望書		8-58
	図書館独自アンケート資料		8-59
9 社会連携・ 社会貢献	金城学院大学産学官連携ポリシー	○	9-1
	大学コンソーシアムせと	○	9-2
	大学間連携	○	9-3
	包括・連携協定書		9-4
	金城学院大学・中部国際空港産学連携協定書		9-5
	広告研究会が制作した瀬戸観光振興ポスターが、瀬戸市役所で展示	○	9-6
	大学コンソーシアムせと活動成果報告会 2017	○	9-7
	大学コンソーシアムせと活動成果報告会 2018	○	9-8
	大学コンソーシアムせと活動成果報告会 2019	○	9-9
	コンソーシアムせとにおける心理臨床相談室の活動（2014-2019）		9-10-1
	尾張旭市教育委員会「心理実践実習学院生等受け入れについて」（2019～2020年度）		9-10-2
	心理臨床相談室活動報告（『心理臨床相談室紀要』2014～2019）		9-10-3
	セントレアサポーターズが行った英語ガイド冊子製作・配布の取り組みについて名古屋テレビ、中日新聞が紹介	○	9-11
	庫元ゼミセントレアサポーターズによる「女子大生が体験したLCCと韓国の魅力展」を開催	○	9-12
	金城セントレアサポーターズが中部国際空港株式会社から感謝状	○	9-13
	女性みらい研究センター主催「女性みらい活躍フォーラム」開催の様子を中日新聞が紹介	○	9-14
	ワタシのみらいをプロデュース	○	9-15
	女性管理職の魅力を発信する冊子「おもしろがって、楽しもう 自分らしい管理職へ！」を作成しました	○	9-16
	金城学院大学 KIDS センター	○	9-17
	KIDS センター活動実績（2019年度4月～2月）		9-18
	「現代子ども学演習（1）」シラバス	○	9-19
	「心理実習（1）」シラバス	○	9-20
	「KIDSセンタープロジェクト」シラバス	○	9-21
	金城学院大学エクステンション・プログラム規程		9-22
	エクステンション・プログラム	○	9-23
	2020年度第1回エクステンション・プログラム委員会補足資料		9-24
	金城学院ファッション工房	○	9-25
	相談会のお知らせ	○	9-26
	ファッションショーのお知らせ	○	9-27
	2019瀬戸市健康まつり 共催		9-28
	第14回 金城学院大学 心理臨床相談室「子育て支援講演会」開催のお知らせ	○	9-29
	2019 関係機関交流会配布物		9-30
	国際交流協定校一覧	○	9-31
	外国人留学生インターンシップ案内		9-32
「キャリア開発G（2）」シラバス	○	9-33	
心理臨床相談室活動方針 2020年度5月～8月		9-34	
お待たせしました、6月29日より再開いたします！ 金城学院大学 KIDS センター	○	9-35	
2020年度エクステンション・プログラム委員会第2回委員会資料		9-36	
『金城学院大学女性みらい研究センター 2018年度研究・活動報告』		9-37	
『金城学院大学女性みらい研究センター 2019年度研究・活動報告』		9-38	
2020年度海外留学支援制度（協定派遣）学生交流創成タイプ（タイプA）採択プログラム一覧（短期研修・研究型）	○	9-39	
相談できます 女性みらい研究センター	○	9-40	

9 社会連携・ 社会貢献	学ぶ・相談する 金城学院大学 KIDS センター	○	9-41
	心理臨床相談室	○	9-42
	活動内容 金城学院ファッション工房	○	9-43
	講座案内「聖書」	○	9-44
	活動内容[公開講演会・演奏会] キリスト教文化研究所	○	9-45
	学会等に対する補助内規		9-46
	金城学院大学リポジトリ規程		9-47
	学習成果公表等助成費の募集について	○	9-48
	2020 年度 学習成果公表等助成費採択結果	○	9-49
10 大学運営・ 財務 (1) 大学運営	第 21 回総合戦略協議会資料 (金城学院大学 VISION 2030 について)		10-1
	金城学院大学学長選考規程		10-2-1
	金城学院大学学長選考規程施行細則		10-2-2
	金城学院職務権限及び権限委任に関する規程		10-3
	金城学院大学役職者選挙に関する申し合わせ		10-4
	金城学院大学副学長選挙規程		10-5
	金城学院大学大学院文学研究科長候補者選考規程		10-6
	金城学院大学大学院人間生活学研究科長候補者選考規程		10-7
	組織 学院について	○	10-8-1
	学校法人金城学院理事・評議員名簿 (2020 年度)		10-8-2
	サークル協議会等学生の意見を聴取した資料		10-9
	金城学院大学防災管理規程		10-10
	金城学院大学防災計画		10-11
	2019 年 04 月 23 日_2019 年度第 1 回防災管理委員会		10-12
	防災訓練について (教職員用) (10 月)		10-13
	大地震対応マニュアル	○	10-14
	海外危機管理に関する研修資料(2019~2020 年度)		10-15
	2019 年度第 10 回常任理事会議事録		10-16
	金城学院経理規程		10-17
	金城学院予算執行内規		10-18
	金城学院予算執行決裁規程		10-19
	新型コロナウイルス対応チームの設置について		10-20
	第 1 回新型コロナウイルス対応チーム会議録 (2020 年 02 月 21 日)		10-21
	金城学院職員就業規則		10-22
	人材育成制度の運用マニュアル		10-23
	金城学院事務職員研修助成規程		10-24-1
	専任事務職員の研修助成要綱		10-24-2
	ハラスメント防止に関する講演会の開催について		10-25
	全学懇話会の日程変更について		10-26
	事業計画・報告	○	10-27
	監査法人による監査報告書		10-28-1
	監事による監査報告書		10-28-2
	金城学院内部監査規程		10-29
事業報告・中期計画事業報告に関する理事会・評議員会議事録		10-30	
キャンパス内避難場所	○	10-31	
災害時「安否確認システム」の案内と登録のお願い		10-32	
大規模風水害時における避難者の受け入れに関する協定		10-33	
10 大学運営・ 財務 (2) 財務	授業料・入学金・施設整備費一覧表 (2020~2026 年度)		10-34
	人件費一覧表 (2020~2026 年度)		10-35
	2015 年度計算書		10-36-1
	2016 年度計算書		10-36-2
	2017 年度計算書		10-36-3
	2018 年度計算書		10-36-4
	2019 年度計算書		10-36-5
	2020 年度計算書		10-36-6
	自己診断チェックリスト (大学・短期大学編) 令和元年度版 ※抜粋		10-37

10 大学運営・ 財務 (2) 財務	概算資金収支シミュレーション (2020~2026 年度)		10-38
	2020 年度予算編成について		10-39
	外部資金獲得状況 (2016~2020 年度)		10-40
	受託研究、共同研究、学術研究奨励寄附金	○	10-41
	寄付について	○	10-42
	金城学院維持協力会会則		10-43
	金城学院維持協力会	○	10-44
その他	5カ年連続財務計算書類		
	基礎要件シート 9 履修登録単位数の上限設定備考【履修登録できる単位数に含まれない科目】		
	基礎要件シート 17 設置基準上必要専任教員数の充足 薬学部薬学科根拠となる資料「薬学協議会薬学教員名簿」		
	大学基礎データ 表1 2021年5月1日現在		
	資料 10-37 追加資料 教育活動資金収支差額比率 法人全体		

金城学院大学提出・閲覧用準備資料一覧（実地調査）

	資料の名称	ウェブ	資料番号
1 理念・目的	2020年度活動報告・2021年度活動計画（教学関係）（2021年度第1回教育課程編成会議資料）		実地 1-1
2 内部質保証	後任人事にかかる教員数の確認について_学長室会議事録（2021年5月11日）		実地 2-1
	2020年度第1回内部質保証推進会議資料（2020年7月1日）		実地 2-2
	自己点検・評価シートの確認について_2020年度第3回内部質保証推進会議資料（2020年12月2日）		実地 2-3
	自己点検・評価報告書校正について_2020年度第9回大学評議会資料（2021年2月4日）		実地 2-4
	自己点検・評価報告書について_2020年度第5回内部質保証推進会議資料（2021年3月3日）		実地 2-5
	2020年度第5回内部質保証推進会議議事録（2021年3月3日）		実地 2-6
	コロナ禍アンケート報告の共有状況（大学IR情報）		実地 2-7
	2021年度第1回大学学生生活委員会議事録（2021年4月9日）		実地 2-8
	授業運営等に関するお願い（教務部長、履修支援センター）		実地 2-9
	2020年度第5回教育課程編成会議議事録（2021年1月27日）		実地 2-10
	『教育力授業サポートBOOK2021（前期版）』について		実地 2-11
3 教育研究組織	金城学院大学キリスト教文化研究所紀要規程		実地 3-1
	2020年度消費生活科学研究所所員会議議事録		実地 3-2
	2020年度人文・社会科学研究所運営委員会記録		実地 3-3
	2020年度人文・社会科学研究所所員会議議事録		実地 3-4
	2020年度キリスト教文化研究所所員会議議事録		実地 3-5
4 教育課程・学習成果	2021年度文学研究科生提出物一覧表		実地 4-1
	人間科学研究科 2020年度博士課程前期課程・後期課程予定表		実地 4-2
	新入生アンケート調査票_2021年度		実地 4-3
	学生生活アンケート調査票（2020コロナ過におけるアンケート）_学部生向け		実地 4-4
	卒業時アンケート調査票_学部生向け		実地 4-5
	第1回共通教育科目改定諮問委員会資料（2017年4月24日）		実地 4-6
	2019年度以降の共通教育科目の変更に伴う学則の一部変更について_2018年度第3回大学評議会（2018年6月6日）		実地 4-7
	大学IR情報（大学内専用ページ）		実地 4-8
	PROG結果報告書 2020年度1年生		実地 4-9
	PROG結果報告書 2020年度2年生		実地 4-10
	2020年度FD・SD交流集会（全学交流ダイアログ）資料		実地 4-11
	DP対応ループリックの経年変化結果		実地 4-12
	DP対応ループリックレーダーチャート画面キャプチャー		実地 4-13
	【ご案内】教育課程編成会議小委員会の組織について		実地 4-14
5 学生の受け入れ	オープンキャンパスにおける大学院個別相談会ポスター		実地 5-1
	2020年6月中旬朝日新聞・日本経済新聞原稿		実地 5-2
	2020年6月中日新聞・大学院特集		実地 5-3
	2020年12月上旬朝日新聞・日本経済新聞原稿		実地 5-4
	2021年1月中日新聞・大学院特集		実地 5-5
	金城学院大学の大学・大学院情報 スタディサプリ 社会人大学・大学院	○	実地 5-6
	金城学院大学大学院：基本情報 大学院へ行こう！大学院進学情報サイト	○	実地 5-7
6 教員・教員組織	2020年度第2回大学FD委員会資料		実地 6-1
	生活環境学部定例教授会議事録（2020年7月8日）		実地 6-2
	生活環境学部臨時教授会議事録（2020年7月15日）		実地 6-3
	2020年度FD・SD交流集会（全学交流ダイアログ）視聴後アンケート		実地 6-4

6 教員・教員組織	全学FD資料_合同教授会資料：2018年度学科別教育協議会に向けて（2018年06月27日）		実地 6-5
	文学研究科FD委員会議事録（2019～2020）		実地 6-6
	大学院文学研究科講演会開催のお知らせ	○	実地 6-7
	人間生活学研究科FD研修会案内		実地 6-8
	人間科学部現代子ども教育学科教員数にかかる学長室会議事録（2020年05月19日）		実地 6-9
	環境デザイン学科教員数にかかる常任理事会議事録（2020年09月28日）		実地 6-10
	文学研究科博士課程後期課程社会学専攻併任教員にかかる文学研究科研究科委員会議事録（2021年4月14日）		実地 6-11
	2021年度教員組織について_学長室会資料（2021年05月11日）		実地 6-12
7 学生支援	前期分K-カルテ成績不振学生に係る指導記録について_2020年度第6回大学学生生活委員会議事録		実地 7-1
	2020年度後期定期個人面談および成績不振者の面談について_2020年度第7回大学学生生活委員会議事録		実地 7-2
	K-カルテへのアドバイス登録状況について_2020年度第1回大学学生生活委員会議事録		実地 7-3
	K-カルテの年度更新について_2020年度第8回大学学生生活委員会議事録		実地 7-4
8 教育研究等環境	大学キャンパスマスタープラン説明会の開催について（全5回）		実地 8-1
	2015年度全学懇話会資料		実地 8-2
	金城学院創立130周年記念式典について		実地 8-3
	金城学院創立130周年記念式典の中止について		実地 8-4
	2021年度マルチメディアセンター講習会資料		実地 8-5
	『教育力 授業サポートBOOK 2021（前期版）』		実地 8-6
	2021年度金城学院新任者オリエンテーションプログラム		実地 8-7
	個人情報取扱いガイドライン		実地 8-8
	個人情報保護に関するe-ラーニングシステム		実地 8-9
	学外研究助成・補助金のご案内/研究支援ホームページについて		実地 8-10
	学内助成ウェブサイト		実地 8-11
	金城学院大学における教育・研究助成制度一覧		実地 8-12
	研究費及び各種助成費・補助金等について_新任教員連絡事項（大学のみ）		実地 8-13
個人研究費・設備費等の使用手引き		実地 8-14	
9 社会連携・社会貢献	金城学院ファッション工房の学生スタッフの活動（2016～2020年度）		実地 9-1
	KIDSセンター学生サポーター募集要項		実地 9-2
	KIDSセンター学生サポーター活動要項（2021年度）		実地 9-3
	2020年度金城学院ファッション工房活動報告		実地 9-4
	KIDSスタッフ会議2021年6月30日議事録		実地 9-5
	2020年度KIDSセンター振り返りと2021年度の展望		実地 9-6
	女性みらい研究センター事業概要_2018年度合同教授会資料（2018年6月27日）		実地 9-7
	女性みらい研究センター学長報告MTG資料（2019年4月2日）		実地 9-8
	女性みらい研究センター運営委員会案内（2019年3月22日）		実地 9-9
	女性みらい研究センター運営委員会学長報告（2021年度計画）		実地 9-10
	女性みらい研究センター運営委員会記録（2021年1月21日）		実地 9-11
金城学院大学心理臨床相談室委員会規程		実地 9-12	
10 大学運営・財務 (1) 大学運営	2020年度予算査定にかかる学長室会議事録・資料		実地 10(1)-1
	2020年度予算編成について_2019年度第10回常任理事会議事録（2019年10月21日）		実地 10(1)-2
	2021年度予算編成方針_第7回学部長会（2020年11月25日）		実地 10(1)-3
	SD研修の開催頻度・テーマ・各参加率/研修助成制度利用状況		実地 10(1)-4
	全学懇話会資料（2018・2019年度）		実地 10(1)-5
	2020年度事業報告_金城学院定期評議員会・定期理事会資料（2021年5月31日）		実地 10(1)-6
	業務監査テーマ・結果（2018-2020）		実地 10(1)-7

10 大学運営・ 財務 (2) 財務	教育活動資金収支差額（比率）のシミュレーション		実地 10(2)-1
	金城学院資産運用規程		実地 10(2)-2
	要積立額に対する金融資産の充足率の実績及びシミュレーション		実地 10(2)-3
その他	学長プレゼンテーション資料「本学の内部質保証について」		/
	学長方針資料		
	事務職員の研修制度について		